

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
1	1996年	分類不能	論文	山脇敬子(加藤敬子)	ガントリークレーンが倒れた日ー95年冬神戸	同志社大学大学院新聞学		神戸での震災経験を元に、当日の住民行動、政府の対応、マスコミの報道、支援のミスマッチ、避難の経路などを分析した。	なし		2	C, F	なし	ymwk@m3.gyao.ne.jp	東日本大震災の被災地に学生を引率しボランティア活動をする予定。
2	1999年	復興	書籍	岩崎信彦他編	『阪神・淡路大震災の社会学』(全3巻)	昭和堂			(2012年より昭和堂ホームページで無料公開)						
3	2007年	理論	書籍	大矢根淳・浦野正樹・田中淳・吉井博明編	『災害社会学入門』(シリーズ災害と社会1)	弘文堂.									
4	2009年9月	理論	書籍	松本三和夫	『テクノサイエンス・リスクと社会学ー科学社会学の新たな展開ー』	東京大学出版会		福島事故の2年前に、科学技術のリスクと社会の失敗軌道を同時に分析するセクター理論を提示し、高レベル放射性廃棄物問題などを分析。	http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-056105-1.html	F & H	3		なし	松本三和夫 miwao@l.u-tokyo.ac.jp	なし
5	2010年11月	理論	論文	Miwao Matsumoto	To understand, or not to understand?: Nuclear waste questions posed to the sociology of science and technology,	Proceedings of SNU-UT Joint Forum (2010), pp. 1-10.		福島事故の2年前に、高レベル放射性廃棄物処分問題の科学社会的分析をとおして、いわゆるリスク社会学に取まりきれない問題の地平を展望した研究。	なし	C	3		なし	松本三和夫 miwao@l.u-tokyo.ac.jp	なし
6	2011年11月	データベース	口頭報告	岩井紀子	What Japanese People Think and Do After the Great East Japan Earthquake, Tsunami and the Fukushima Nuclear Accident	California Sociological Association Meeting 2011; Session: "Japan, the Earthquake, Tsunami, and Nuclear Power"		東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故が社会生活に与えた影響を把握するために、JGSS が作成したJGSS-2012の第2回プリテストの結果。48の関連設問のうち、27の継続設問について震災前のデータ(JGSS-2008とJGSS-2010)との比較した。	なし	D	3		なし	岩井紀子 n-iwai@tcn.zaqq.ne.jp	なし
7	2011年12月	避難住民	口頭報告	高木竜輔	「原発災害をめぐる避難と受け入れの交錯ー楡葉町といわき市の事例からー」	環境社会学会・例会		福島県楡葉町ならびにいわき市に関する各種データ調査研究をふまえて、楡葉町における原発避難による課題と避難者を受け入れるいわき市が抱える問題を整理した。	なし	H	1		なし	高木竜輔 r-takaki@iwakimu.ac.jp	なし
8	2011年10月	避難住民	論文	加藤真義	「被災・避難にかんする社会的カテゴリについてー「東日本大震災」後の福島事例ー」	社会理論研究会研究例会 東洋大学									
9	2011年5月	復興	口頭報告	大内田鶴子	The Purpose of the Neighborhood post 3.11 Disaster in Japan	2011 Neighborhoods, USA Annual Conference in Anchorage, ALASKA USAでの発表		非日常的な大災害の時には、集落や近隣でのとっさの判断の有無によって運命が分かれたこと、近隣レベルでのリーダーの判断の重要性について、生々しい体験から報告した。	なし	G	3		なし	touchi@edogawa-u.ac.jp	なし
10	2011年7月	復興	口頭報告	加藤真義	不透明な未来への不確かな対応ー「東日本大震災」後の福島事例ー	第58回東北社会学会大会		東日本大震災後の福島における被害、避難の状況について考察した。	なし	A	1		福島大学 行政政策学類	加藤真義 mkato@ads.fukushima-u.ac.jp	なし
11	2011年9月	復興	口頭報告	溝口佑爾・高橋宗正・新藤祐一・久保山智香・服部哲	ワークショップ4:街の思い出サルベージアルバム・オンライン	2011年日本社会情報学会(JSIS & JASI)合同研究大会での報告		宮城県亘理郡山元町において津波に流され持ち主不明となった写真約70万枚をITを駆使して救済&返却するプロジェクト「思い出サルベージ」についての中間報告	なし	H	2		なし	溝口佑爾 egofuisti@gmail.com	なし
12	2011年11月	復興	書籍	松井克浩	『震災・復興の社会学ー2つの「中越」から「東日本」へ』	リベルタ出版									
13	2011年12月	復興	書籍	遠藤薫(編著)	大震災後の社会学	講談社現代新書		日本の社会システムと大震災・原発事故の相互関係を論じた		なし	3		なし	遠藤薫 kaoru.endo@gakushuin.ac.jp	なし
14	2011年	復興	論文	大矢根淳	「震災地復興の主体と条件 生活再建とコミュニティづくりに向けての覚書」	東北芸術工科大学東北文化研究センター編『季刊東北学 特集:地震・津波・原発ー東日本大震災』第2期・第28号(2011年夏): 183-193, 柏書房.									

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など	
15	2011年11月	防災	口頭報告	大内田鶴子	コミュニティと住民防災活動—日米比較の視点から	日本都市学会福島大会 学会発表		2011年3月の東日本大震災は未曾有の被害をもたらした。これからの防災思想は「減災」が基本であり、防災活動は地域コミュニティが取り組みの主役・主体であることを基本方針にしている[平成23年6月25日]。本報告では、コミュニティの自助・自立力の獲得と減災の視点から、既存研究を整理し、アメリカの連邦政府政策と近隣組織レベルの活動を参考にしながら、住民を主体とした防災活動の現在について考察する。	http://www.toshigaku.org/	A	3	D, I	なし	touchi@edogawa-u.ac.jp	なし	
16	2011年12月	ボランティア	口頭報告	溝口佑爾	情報ボランティアから思い出の救済へ: 東日本大震災被災地山元町におけるIT支援の試みの記録	第四回知識共有コミュニティワークショップでの報告		2011年4月初旬宮城県亶理郡山元町にて住みこみでIT支援を試みている立場から、被災地におけるIT支援において直面する問題とその解決法、想定外のニーズの汲み取り方、写真の救済プロジェクトにおいて直面した問題とその解決法について、暫定的な報告を行った。	http://www.infosocio.org/cfp_workshop_a2011.html	H	2		なし	溝口佑爾 egofuisti@gmail.com	なし	
17	2011年7月	ボランティア	論文	福永文夫、江口友介、中江絵美	学生によるボランティア報告会——3.11後を考える	獨協大学地域総合研究所紀要『地域総合研究』第5号		法学部3年江口氏による報告「ガレキの中から立ち上がり！被災地の現状」および、国際教養学部4年中江絵美氏による報告「福島県相馬郡新地町の事例」の記録。	http://www.dokkyo.ac.jp/news/detail/id/1232/odir/ka_chiikiken/	B	3	A, C, D,	獨協大学地域総合研究所	獨協大学地域総合研究所	なし	
18	2011年5月	メディア	口頭報告	遠藤薫	大震災とメディア—何によって何が語られたか	日本学術会議主催学術フォーラム「東日本震災と報道メディア」		メディアの検証	なし	なし	3	H, J	なし	遠藤薫 kaoru.endo@gakushuin.ac.jp		
19	2011年11月	メディア	口頭報告	遠藤薫	第4回横幹連合コンファレンス(2011)招待講演「東日本大震災とメディア—何が何を伝えたか—」	第4回横幹連合コンファレンス「21世紀のイノベーション創出に向けた知の統合と知の創造」要旨集		メディアの検証	なし	なし	3	H, J	なし	遠藤薫 kaoru.endo@gakushuin.ac.jp		
20	2011年12月	メディア	論文	遠藤薫	東日本大震災とメディア—何が何をどのように伝えたか—	『学術の動向』2011年12月号p.23-33		震災時、メディアがどのように報じたかを分析した。	なし	なし	3	H, J	なし	遠藤薫 kaoru.endo@gakushuin.ac.jp		
21	2011年9月	理論	口頭報告	松本三和夫	テクノサイエンス・リスクと政策の決定不全性—発電用原子炉の放射性廃棄物処分を見本例として—	第84回日本社会学会大会にて発表			なし		3		なし	松本三和夫 miwao@l.u-tokyo.ac.jp	なし	
22	2011年11月	理論	口頭報告	松本三和夫	「構造災」を越えて—国策の失敗軌道をどう転換するか—	東京大学 大学総合教育センター、朝日新聞社寄附講座「全学横断型教育研究 知の冒険」にて講演			なし		3		なし	松本三和夫 miwao@l.u-tokyo.ac.jp	なし	
23	2011年12月	理論	口頭報告	松本三和夫	テクノサイエンス・リスクと「構造災」—発電用原子炉をめぐる政策の決定不全性—	日本社会学会・韓国社会学会ジョイントパネルにて招待講演		第2種の決定不全性の視点から福島事故の社会学的問題点を分析。	なし		3		なし	松本三和夫 miwao@l.u-tokyo.ac.jp	なし	
24	2011年	理論	書籍	大澤真幸	『夢よりも深い覚醒へ 3・11後の哲学』	岩波書店										
25	2011年6月	理論	論文	松本三和夫	テクノサイエンス・リスクを回避するために考えてほしいこと—科学と社会の微妙な断面—	『思想』第1046号、6—26頁		チェルノブイリ事故直後に発生した「カンブリアの羊」事件の分析で知られる社会学者のB. Wynneとその論敵のH. Collinsを招いて福島事故の前年に開催した国際ワークショップの成果の一部。	なし	F & H	3		なし	松本三和夫 miwao@l.u-tokyo.ac.jp	なし	
26	2011年9月	理論	論文	松本三和夫・安俊弘	福島原発事故を招いた社会的要因をさぐる—独立な専門知による適正な評価システムをいかにつくるか—	『科学』第81巻、第9号、904-913頁		カリフォルニア大学バークレー校原子力工学科教授との対談記録(続)。	なし		1		なし	松本三和夫 miwao@l.u-tokyo.ac.jp	なし	
27	2011年9月	理論	論文	松本三和夫	専門家はいかに市民に伝えるべきか	『kotoba』秋号、46-51頁		カリフォルニア大学バークレー校原子力工学科教授との対談記録。	なし		3		なし	松本三和夫 miwao@l.u-tokyo.ac.jp	なし	

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	web サイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
28	2011年7月	原子力災害・エネルギー	口頭報告	Miwao Matsumoto	The structural failure of the science-technology-society interface: A hidden accident long before Fukushima	Guest Lecture given at Advance Summer School of Nuclear Engineering and Management with Social Scientific Literacy, University of California, Berkeley.		カリフォルニア大学バークレー校で開催された福島事故をめぐる原子力と社会科学の連携に関する国際会議での招待講演。対米開戦直前に発生した軍事技術の重大事故が秘密にされたまま対米開戦に突入した構造と福島事故の構造の相似性を分析している。	http://goneri.nuc.berkeley.edu/pages2011/PAGES2011-Program.pdf	F & H	3		カリフォルニア大学バークレー校	松本三和夫 miwao@l.u-tokyo.ac.jp	なし
29	2011年11月	原子力災害・エネルギー	口頭報告	日本大学文理学部社会科学部・後藤範章ゼミナール	1.『東京人』にとっての大震災と原発事故—希望としての災害エンパワーメント—(2011年11月) 2.『NO NUKES!—原発リスクの可視化と可視化がもたらす社会運動—(2012年11月)	第18・19回“写真で語る:「東京」の社会学”展		1.大震災と原発事故後の7ヶ月のプロセスを「東京」と「東京人」に焦点をあてて追いつ、「災害エンパワーメント」について検討した。 2.「さよなら原発10万人集会」や「首相官邸前抗議行動」参加者へのインタビュー調査などに基づいて、反・脱原発ムーブメントの意味を掘り下げた。	http://n510.com/ (1.は、 http://n510.com/project/syasin_de_kataru_project/seika/2011sakuhin/2011_17.html 2.は2013年3月にアップする予定)	H	3	B, F, J	なし	後藤範章 ngotoh@chs.nihon-u.ac.jp	
30	2011年11月	原子力災害・エネルギー	口頭報告	川副早央里・浦野正樹	「原発災害の影響と復興への課題—いわき市の地域特性と被災状況の多様性への対応—	第58回日本都市学会報告要旨集		いわき市での聞き取り調査をもとに、いわき市の被災状況と復興への課題を報告した	なし	AE	3		なし		なし
31	2011年11月	原子力災害・エネルギー	口頭報告	Miwao Matsumoto	Underdetermination of Policy in Nuclear Waste Disposal in Japan: Participation of the People, by the People, for Whom?	Paper given at the Annual Meeting of the Society for the Social Studies of Science, Cleveland.		福島事故以前に発電用原子炉のリスクがいかなる科学コミュニケーション活動によっても当事者に行われていない状況が高レベル放射性廃棄物処分問題においても今後再生産されるリスクを警告した分析。	なし	F & H	3		なし	松本三和夫 miwao@l.u-tokyo.ac.jp	なし
32	2011年12月	原子力災害・エネルギー	口頭報告	Miwao Matsumoto	Underdetermination of Policy in Nuclear Waste Disposal after 'Structural Disaster'	The Keynote Lecture given at Nissan Workshop in IPoS 2011: Technology and Society,		Intensive Program on Sustainability2011で行った基調講演。	なし	F & H	3		なし	松本三和夫 miwao@l.u-tokyo.ac.jp	なし
33	2011年	原子力災害・エネルギー	テレビ番組	五十嵐泰正+「安全・安心の柏産柏消」円卓会議		NHK、千葉テレビ、J:Com、新聞各紙、生活クラブ連合会『生活と自治』ほか多数		「安全・安心の柏産柏消」円卓会議による取り組みについての各種報道	http://www.kyasai.jp/home/media	H	1		「安全・安心の柏産柏消」円卓会議	「安全・安心の柏産柏消」円卓会議事務局 stbreakers2004@yahoo.co.jp	左記ウェブサイトの一覧があります。
34	2012年3月	医療・福祉	報告書	権藤 眞由美・野崎 泰伸 編	医療機器と一緒に 街で暮らすために——シンポジウム報告書 震災と停電をどう生き延びたか～福島の在宅難病患者・人工呼吸器ユーザーらを招いて～	生存学研究センター報告		東北で震災が、原発事故が起こってしまった。この災厄に障害者や患者たちはどう生き延びたのか。とりわけ、普段電気を得つつ生存のための機械を動かす在宅患者にとって、計画停電による影響はどうだったのか。このようなことが、ほとんど報じられてこなかった。震災が起こって半年、福島や千葉の患者と京都の患者とが協力しシンポジウムを行った。本書はそのシンポジウム報告集でもある。他に、イラストで図解してある停電のときのための介助マニュアル、シンポジストのその後の様子を追ったエッセイ、医療機器を使う患者の実態調査論文など、内容盛りだくさん。まずは、本書をお読みになって事態を知ってください。	http://www.ritsumeiarsovi.org/publications/index/type/ccnter_reports/number/18	H	3	CFJ	京都市北区等持院北町56-1 立命館大学生存学研究センター事務局	〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 ars-vive@st.ritsumei.ac.jp	なし
35	2012年6月	医療・福祉	論文	立岩真也・白石清春・野崎泰伸	特集II 災厄に向かう——阪神淡路の時、そして福島から白石清春氏を招いて	『障害学研究』8, 発行:障害学会, 発売:明石書店			http://www.arsvi.com/ds/jds008.htm	H	3	BCFJ	障害学会		なし
36	2012年10月	総合	論文	関西学院大学	大学共同研究「東日本大震災関連共同研究」	DVD-ROM	無	被災地の現状、震災・原発事故からの教訓をもとに、技術および移動と生活者との関係を探り、カーシェアリングや観光などに関する実態調査をもとに、復旧・復興への方途を明らかにする。	なし	B	3		なし	奥野卓司 okuno@kwansei.ac.jp	なし
37	2012年11月	データベース	口頭報告	宍戸邦章・岩井紀子	東日本大震災の影響を全国調査の結果から捉える	第85回日本社会学会大会	有	日本全国の20-89歳を対象としたJGSS-2012のデータをもとに、東日本大震災の影響を検討した。検討した内容は、災害リスク認知、原子力政策意識、社会関係資本、精神的健康度である。分析は都道府県レベルのデータをマッピングして行った。	なし	D	3	B, F, G, I	なし	宍戸邦章 kuniaki@oak.ocn.ne.jp	なし

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など	
38	2012年10月	データベース	論文	西日本社会学会事務局	東日本大震災および福島原発事故に関するアンケート調査結果	『西日本社会学会ニュースNo.139』pp33-36		会員に対して行ったアンケート調査結果の報告。なお、調査データ(SPSS形式)については、報告書発行後、所定の手続きを経た後、会員に公開。	http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/~sociowest/index.html	H	3	J	西日本社会学会事務局	西日本社会学会事務局 sociowest@lit.kyushu-u.ac.jp	なし	
39	2012年3月	避難住民	口頭報告	高木竜輔	「原発避難地域における高校生の震災・復興に対する意識——楡葉町を事例として」	社会学3学会合同・研究交流会@岩手県立大学アイーナキャンパス		2012年1月に実施した、楡葉町の高校生世代に対する避難生活の状況に関する調査結果を報告した。	なし	B	1	B, C	B, C	高木竜輔 r-takaki@iwakimu.ac.jp	なし	
40	2012年4月	避難住民	口頭報告	金菱清	「震災と大学の人的資源」	第101回高等教育研究会 定例研究会(2012年4月21日) 於:京都私学会館205『危機の時代』と大震災—新しい社会形成の可能性	無									
41	2012年5月	避難住民	口頭報告	原田 峻・西城戸 誠	埼玉県における原発避難者支援の諸相②——支援団体・自助グループの展開過程	地域社会学会第37回大会(慶応義塾大学)		原発避難者が避難過程においていかなる自助グループを立ち上げ、それに対し避難先の団体がいかなる支援をおこなっているのかを、埼玉県を事例に明らかにした。	なし	A, G	1	C, F	なし		なし	
42	2012年5月	避難住民	口頭報告	西城戸 誠・原田 峻	埼玉県における原発避難者支援の諸相①——自治体対応の比較から	地域社会学会第37回大会(慶応義塾大学)		埼玉県の各自治体が、福島県等からの避難者に対してどのような受け入れ・生活支援を実施したのかを明らかにした。	なし	A, G	1	C, I	なし		なし	
43	2012年5月	避難住民	口頭報告	加藤真義	「被災」の立場の分岐 —「東日本大震災」1年後の福島事例—	東北社会学会研究例会	無	東日本大震災後の福島において、被災状態が長期化するなかで被災者立場がどのように分岐しているのか、その現状と課題について考察した。	なし		1		福島大学行政政策学類	加藤真義 mkato@ads.fukushima-u.ac.jp	なし	
44	2012年6月	避難住民	口頭報告	松井克浩	「新潟県内の原発避難者の構成・変化と支援状況」	社会学4学会合同研究・交流会「「原発避難」を捉える／考える／支える」 於:明治学院大学	無									
45	2012年7月	避難住民	口頭報告	植田今日子	The Right to Live by the Coast after an Experience of Huge Scale Tsunami: a case study of a fishing-village of the survivors of the Great East Japan Earthquake	The XIII World Congress of Rural Sociology in Lisbon – Portugal.	有									
46	2012年8月	避難住民	口頭報告	YOSHIDA Kohei and HARADA Shun	The present and the future of the towns where fukushima nuclear plants are located: on some social aspects of the disaster, displacement, and reparation of the community	The Second ISA Forum of Sociology, RC24 (University of Buenos Aires, Argentina)	有	福島原発事故が周辺自治体にいかなる被害をもたらしたのかを、コミュニティの分断と個々の避難者への影響という両面から明らかにした。	なし	A, G	1	B, C	なし		なし	
47	2012年9月	避難住民	口頭報告	小松田儀貞	東日本大震災・原発事故後の秋田～避難者の状況と“秋田うつくしま県人会”の活動～	基盤研究(A)「東日本大震災と日本社会の再建——地震、津波、原発震災の被害とその克服の道」定例研究会(於:福島大学サテライト街なかプランチ舟場)		3.11以降の秋田県における福島からの避難者の受入状況および支援組織の動向について報告。	なし	C	3	C, F	秋田県立大学	小松田儀貞 komatsuda@akita-pu.ac.jp	なし	
48	2012年9月	避難住民	口頭報告	西崎伸子	「全国で展開する保養の取り組みと社会的意義」	福島の子ども保養プロジェクトシンポジウム 於:コラッセふくしま	無									
49	2012年9月	避難住民	口頭報告	植田今日子	「自然災害の受容と災害バナーリズム——津波常習地の一集落の実践から」	2012年度東北社会学研究会研究例会(於:東北大学)	無									
50	2012年11月	避難住民	口頭報告	橋本摂子	「原発災害避難者における就業変化と今後の生活設計」	第85回日本社会学会大会 於:札幌学院大学	有									
51	2012年11月	避難住民	口頭報告	高橋 準	「(いのち)と(絆)——内からの社会理論／思想のために」	第85回日本社会学会大会 於:札幌学院大学 シンポジウム「危機の思想・理論／思想・理論の危機——ポスト3.11の社会学理論を考える」	無									
52	2012年11月	避難住民	口頭報告	川副早央里・浦野正樹・野坂真	「いわき市における避難状況の位相と避難生活上の課題に関する考察」	第85回日本社会学会報告要旨集		いわき市の被災状況に加え、多数の原発避難者を受け入れているいわき市の状況について整理し、避難者側と受け入れ側の課題を報告した。	なし	ACE	3		なし		なし	
53	2012年11月	避難住民	口頭報告	高橋征仁	東日本大震災における遠隔地避難者の社会的ネットワークに関する研究	第30回カンオ科学振興財団研究助成金贈呈式、於:カンオ計算機株式会社(東京)	無									
54	2012年11月	避難住民	口頭報告	植田今日子	「津波被災者が帰ろうとする海の領域意識」	第16回常民文化研究講座「大津波と集落——三陸の集落に受け継がれるもの——」(神奈川県立常民文化研究所主催 於:神奈川大学)	無									

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
55	2012年11月	避難住民	口頭報告	高橋征仁	沖縄の甲状腺検査について～弱い紐帯の強みをデザインする	第1回原発避難者支援制度研究会、関西学院大学東京丸の内キャンパス	無	沖縄県の避難者団体が、どのようにして甲状腺の自主検査にまでたどり着いたのか? 「弱い紐帯の強み」を基本コンセプトに、原発避難の問題を考える	なし	H	1	B,C,D	山口大学 人文学部	高橋征仁 takahasi@yama maguchi- u.ac.jp	なし
56	2012年12月	避難住民	口頭報告	原田 峻・西城戸 誠	「埼玉県における避難者の現状と支援」	第3回 社会学系4学会合同集会「原発避難を捉える／考える／支える(2)」(法政大学)	無								
57	2012年12月	避難住民	口頭報告	西崎伸子	「避難区域外の児童生徒等の放射線防護についての一考察:学校再開問題と20ミリシーベルト問題の検証から」	第46回環境社会学会大会 於:東京都市大学横浜キャンパス	無								
58	2012年12月	避難住民	口頭報告	松井克浩	「震災からの地域の復旧・復興」	国際地域研究学会大会企画セッション「地域の発展」 於:新潟県立大学	無								
59	2012年12月	避難住民	口頭報告	後藤範章・宝田博史	沖縄県における避難者の現状と支援—石垣島での調査から見えてくるもの—	第3回社会学系4学会合同集会「原発避難を捉える／考える／支える(2)」(2)	無	主に石垣島への東京圏からの自主避難者、福島県からの避難者、避難者支援団体を対象として行っている調査を踏まえて、沖縄県の避難者の現状と支援のあり方について報告。	なし	C, D	1	C, F, J	なし	後藤範章 ngotoh@chs. nihon-u.ac.jp	なし
60	2012年12月	避難住民	口頭報告	高橋征仁	沖縄県における震災避難者と支援ネットワークの現状	日本社会分析学会第124回研究例会	無	震災研究における「弱い紐帯の強み」のコンセプトを検討し、沖縄県への避難と支援のネットワーク関係を分析する	なし	B	1	B,C,D	山口大学 人文学部	高橋征仁 takahasi@ya maguchi- u.ac.jp	なし
61	2012年	避難住民	口頭報告	西崎伸子	Severe Circumstances in Fukushima and the Importance of 'Hoyou' Projects after 3.11	"After Katrina and 3.11: Representation, Politics, and Culture" at Sophia University	無								
62	2012年3月	避難住民	書籍	山下祐介・開沼博編	『「原発避難」論 避難の実像からセカンドタウン故郷再生まで』	明石書店									
63	2012年2月	避難住民	論文	金菱清(編)	『3.11 慟哭の記録—71人が体感した大津波・原発・巨大地震』新曜社 541頁	新曜社、全 541頁	無								
64	2012年3月	避難住民	論文	植田今日子・鳥越皓之	Why do Victims of the Tsunami Return to the Coast?	International Journal of Japanese Sociology, 21(1):21-29	有								
65	2012年3月	避難住民	論文	原田 峻	首都圏への遠方集団避難とその後—さいたまスーパーアリーナにおける避難者／支援者	山下祐介・開沼博編『「原発避難」論』明石書店、231-266頁		福島原発事故後の避難の実像をまとめた論文集において、さいたまスーパーアリーナにおける避難者とボランティアの特徴と課題を論じた章などを担当した。	なし	G	1	C, F	なし		なし
66	2012年5月	避難住民	論文	千葉悦子	「原発事故に立ち向かうかーちゃんたち」	『農業と経済』、5月号	無								
67	2012年5月	避難住民	論文	金菱清	「“過剰な”コミュニティの意味—阪神・淡路大震災を教訓とした東日本大震災」	第63回関西社会学会(2012年5月27日) 於:皇學館大学 シンポジウム『3.11以前の社会学』	無								
68	2012年6月	避難住民	論文	山下祐介・山本薫子・吉田耕平・菅磨志保・松園祐子	「原発避難をめぐる諸相と社会的分断—広域避難者調査に基づく分析」	日本環境学会『人間と環境』38-2、pp.10-21	有								
69	2012年6月	避難住民	論文	金菱清	「漁村における弱者生活権の保障」	『Business Labor Trend』2012年6月号、31頁	無								
70	2012年6月	避難住民	論文	金菱清	例外化状態に抗する社会科学の構築にむけて」	『社会学史研究』34、37-51	無								
71	2012年7月	避難住民	論文	山本薫子	「町民が口にした脱原発運動への違和感 富岡町から避難して」	『週刊金曜日』第905号、pp.28-29									
72	2012年7月	避難住民	論文	植田今日子	「なぜ集団移転地は海が見えるところでなければならないのか—気仙沼市唐桑町舞根の海にみる領域意識」	『季刊震災学』1:22-48									
73	2012年7月	避難住民	論文	金菱清	「社会的公正性を支える不公平の承認—不法占拠と3.11大震災における「剥き出しの生」をめぐる」	『社会学年報』41、23-33	無								
74	2012年7月	避難住民	論文	西崎伸子・照沼かほる	『放射性物質・被ばくリスク問題』における『保養』の役割と課題～保養プロジェクトの立ち上げ経緯と2011年度の活動より」	『行政社会論集』第25巻第1号									
75	2012年9月	避難住民	論文	千葉悦子	「全村避難の中で子どもたちの学びの場を維持する飯館村の挑戦」	『子ども白書2012』草土文化	無								

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
76	2012年9月	避難住民	論文	西城戸 誠・原田 峻	原発・県外避難者の困難と「支援」のゆくえ——埼玉県における避難者と自治体調査の知見から	船橋晴俊・長谷部俊治編『持続可能性の危機』御茶の水書房、197-226頁		「持続可能性の危機」という視点から東日本大震災後の状況をまとめた論文集において、原発避難者の諸困難と自立支援に向けた取り組みを聞き取りから明らかにした。	なし	A、G	1	C、F、I	なし		なし
77	2012年11月	避難住民	論文	松井克浩	「防災コミュニティと町内会——中越地震・中越沖地震の経験から」	吉原直樹編『防災の社会学——防災コミュニティの社会設計に向けて〔第二版〕』東信堂、71-97頁	無								
78	2012年11月	避難住民	論文	高橋 準	「救われるべきものは“いのち”なのか——『災害とジェンダー／セクシュアリティ』を考えるために」	クィア学会『論叢クィア』vol.5 特集「3.11以後のクィア」21-33頁	有								
79	2012年12月	避難住民	論文	植田 日子	「なぜ被災者が津波常習地へと帰るのか——気仙沼市唐桑町の海難史の中の津波」	『環境社会学研究』18, 有斐閣:60-81	有								
80	2012年	避難住民	論文	原口 弥生	「福島原発避難者の支援活動と課題 福島乳幼児妊産婦ニーズ対応プロジェクト茨城拠点の活動記録」	茨城大学地域総合研究所年報、45: 39-48.									
81	2012年3月	復興	口頭報告	川副 早央里・浦野 正樹	「東日本大震災の災害過程における<中心>と<周辺>の視点から見る課題——早稲田大学文学学術院東日本大震災復興支援情報コーナーの活動から——」	社会学3学会合同研究・交流会		原発災害と津波災害を<中心>と<周辺>概念を用いて比較検討し、共通の課題を探った。	なし	ACE	3		なし		なし
82	2012年5月	復興	口頭報告	川副 早央里・浦野 正樹	「原発事故の災害過程における都市機能の復旧・復興の現状と課題」	第37回地域社会学学会報告要旨集		原発事故によって避難を強いられる地域について、都市機能への被害や影響から災害過程の展開を整理し、避難側と避難者受け入れ側の課題を報告した	なし	ACE	3		なし		なし
83	2012年6月	復興	口頭報告	牛島 佳代	終わらない被災の時間——福島原発事故後の遷延化した不安、ストレス、対処行動の社会学的分析(3)リスク対処行動と精神的健康度との関連	第47回環境社会学学会大会		災害精神保健質問票SQDと一般精神疾患尺度のK6で、3歳児の親のリスク対処行動と精神的健康度との関連について検討した。1. 事故による生活変化が精神的健康度に影響を及ぼしており、特に変化が少ない項目が健康度悪化と結びつく。2. 県・市町村の事故後の取り組みへの信頼が精神的健康度と正の関連がある。3. 地域愛着度が高いとメンタルヘルスに予防的であり、ソーシャルサポートの数が多いほど、精神的健康度が高い。	http://mother-child.jpnewellness.com/	A、C、G	1	B、F、I、J	福岡大学医学部衛生・公衆衛生学教室	牛島佳代 meshima@fukuoka-u.ac.jp	なし
84	2012年6月	復興	口頭報告	松谷 満	終わらない被災の時間——福島原発事故後の遷延化した不安、ストレス、対処行動の社会学的分析(2)社会経済的地位とリスク対処行動・健康不安との関連	第47回環境社会学学会大会		1. 社会経済的地位(SES)が避難や保養とどのように関連しているのか、また、2. SESと健康不安とどう関連しているのかを検討した。1については、経済的要因の影響は明確でなく、親の居住地、配偶者の学歴、年長のきょうだいの有無といった家族の社会的状態の影響が認められた。2については、家計の状態と学歴はともにリスク認知と明確に関連することがわかった。	http://mother-child.jpnewellness.com/	A、C、G	1	B、F、I、J	福岡大学医学部衛生・公衆衛生学教室	成元 哲 sungwonc@ass.chukyo-u.ac.jp	なし
85	2012年6月	復興	口頭報告	成元 哲	終わらない被災の時間——福島原発事故後の遷延化した不安、ストレス、対処行動の社会学的分析(1)調査地域、基本属性、リスク認知・不安、対処行動	第47回環境社会学学会大会		福島市、郡山市など福島県中通り9市町村の3歳児全員を対象にした社会疫学調査(2013年1月実施)をもとに、原発事故が親子の生活環境の変化(外遊び時間、健康不安、避難行動、補償をめぐる不公平感など)、子どもの心身の発達、親子の健康状態に及ぼす影響を「事故直後」、「半年後」、「この1ヶ月」で検討した。	http://mother-child.jpnewellness.com/	A、C、G	1	B、F、I、J	福岡大学医学部衛生・公衆衛生学教室	成元 哲 sungwonc@ass.chukyo-u.ac.jp	なし

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
86	2012年9月	復興	口頭報告	遠藤薫	東日本大震災をどう生きるか-レジリエントな社会システムを目指して	日本キャリアデザイン学会第9回研究大会基調講演(http://www.career-design.org/content/view/277/40/)		東日本大震災は私たちの社会に未曾有の被害をもたらした。潜んでいた様々な亀裂を露わにした。いま、多くの課題が立ちあがっている。しかし、日本は世界でも有数の地震・津波災害多発地帯である。日本固有といわれる無常観もそうした自然環境に培われたのかもしれない。伝説の都市トロイやポンペイは自然の猛威によって滅びた。だが日本社会は、幾多の想像を絶する災禍に見舞われつつも、長い時を越えて生き延びてきた。日本社会のしたたかさを分析し、再認識するとともに、震災後社会のレジリエントなキャリアデザインを考える。	なし	なし	3	H,I,J	なし	遠藤薫 kaoru.endo@gakushuin.ac.jp	
87	2012年10月	復興	口頭報告	土屋 葉、井口高志、岩永理恵、田宮遊子	震災等の被害にあった「社会的弱者」の生活再建のための公的支援の在り方の探究(2)-保健医療および福祉サービス給付についての検証から-	第60回大会(秋季大会)日本社会福祉学会ポスター報告		災害時の社会保障制度をはじめとした公的支援のあり方を検討した。とくに災害のリスクに対する脆弱性が高いと考えられる「社会的弱者」のなかでも、障害者および高齢者への保健医療および福祉サービス給付に焦点化した報告を行った。	なし	C E	3		なし	土屋葉 yout@vega.aichi-u.ac.jp	なし
88	2012年10月	復興	口頭報告	岩永理恵、田宮遊子、井口高志、土屋 葉	震災等の被害にあった「社会的弱者」の生活再建のための公的支援の在り方の探究(1)-阪神・淡路大震災と東日本に際した生活保護運用についての検証から-	第60回大会(秋季大会)日本社会福祉学会ポスター報告		「社会的弱者」について、災害の影響を質的・量的調査によって検証し、生活再建のための諸制度について分析し、その問題点を明らかにすることを目的とした研究の一環であり、後者のうち生活保護運用に着目した報告を行った。	なし	C E	3		なし	土屋葉 yout@vega.aichi-u.ac.jp	なし
89	2012年11月	復興	口頭報告	野坂真・浦野正樹・川副早央里	「津波被災地域における災害過程と過疎地域の復興にむけた考察」	第85回日本社会学会報告要旨集		岩手県大槌町での調査をもとに、災害過程を社会的時間軸で整理し、過疎地域における復興の課題を報告した	なし	ACE	2		なし		なし
90	2012年2月	復興	書籍	弘前大学人文学部ボランティアセンター	チーム・オール弘前の一年-岩手県野田村の復興支援・交流活動の記録-	弘前大学出版会		弘前市民・弘前市・弘前大学が連携した「チーム・オール弘前」の一年間の活動記録。毎回の活動報告や、参加者の声、および活動のこれまでとこれからの座談会から構成されている。	http://www.hirosaki-u.ac.jp/hupress/	B	2		弘前大学ボランティアセンター	弘前大学ボランティアセンター huvc@cc.hirosaki-u.ac.jp	なし
91	2012年3月	復興	報告書	尚綱学院大学総合人間科学部現代社会学科	2011年度「社会調査(地域活性化構想)実習」報告書			名取市民を対象とする被災と復興に関する意識調査を実施し、復興への課題を明らかにしている。	http://www.shokei.jp/faculty/university/society/information/detail.php?p=67	H	2		なし	内田龍史 r_uchida@shokei.ac.jp	なし
92	2012年3月	復興	報告書	弘前大学人文学部ボランティアセンター	北リアスにおけるQOLを重視した災害復興政策研究報告書	HUVC報告書		北リアス地域におけるQOLを重視した総合的な災害復興政策研究であり、経済学、法学、社会心理学、社会学等の研究者がそれぞれの分野を生かした研究成果を収録している。	なし	B	2		弘前大学ボランティアセンター	弘前大学ボランティアセンター huvc@cc.hirosaki-u.ac.jp	なし
93	2012年3月	復興	論文	大橋保明・高木竜輔	「東日本大震災における檜葉町の災害対応(3)-教育機能の維持・再編」	『いわき明星大学大学院人文学研究科紀要』10, 63-74		東日本大震災と原発災害に見舞われた檜葉町において、小中学校の生徒の移動状況ならびにそれへの行政の対応、町民アンケートから明らかになった教育上の問題についてまとめた。	http://www.iwakimu.ac.jp/~r-takaki/2012naraha3.pdf	B	1	B, C	なし	高木竜輔 r-takaki@iwakimu.ac.jp	なし
94	2012年3月	復興	論文	柳澤孝主・菊池真弓	「東日本大震災における檜葉町の災害対応(2)-避難先における福祉機能の維持と家族機能の再編に向けて」	『いわき明星大学大学院人文学研究科紀要』10, 52-62		東日本大震災と原発災害に見舞われた檜葉町において、高齢者の現状とそれを支える行政・福祉関係者の震災前後の支援体制とその変化について整理した。	http://www.iwakimu.ac.jp/~r-takaki/2012naraha2.pdf	B	1	B, C	なし	高木竜輔 r-takaki@iwakimu.ac.jp	なし
95	2012年3月	復興	論文	菅野昌史・高木竜輔	「東日本大震災における檜葉町の災害対応(1)-コミュニティの再生に向けて」	『いわき明星大学大学院人文学研究科紀要』10, 36-51		東日本大震災と原発災害に際して、檜葉町役場の災害対応の様子と、町が実施した町民アンケートから浮かび上がった避難生活の課題について、整理した。	http://www.iwakimu.ac.jp/~r-takaki/2012naraha1.pdf	B	1	B, C	なし	高木竜輔 r-takaki@iwakimu.ac.jp	なし

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
96	2012年3月	復興	論文	吉田 毅	東日本大震災で被災したスポーツ集団の復興プロセス—被災の様相と復興へのカー	スポーツ社会学研究、20巻1号、pp.5-19		2つのスポーツ集団および各メンバーの被災の様相と復興へ向けたプロセスについて、特にそこで機能している(した)力に着目し説明、報告した。	なし	G	2	A, E, F, J	なし	吉田 毅 yosidat@tohtech.ac.jp	甚大な被害を受けた集団ないし個人の復興へ向けた様子について調査されている方がおられたら、当該知見等について教えて頂きたいです。
97	2012年5月	復興	論文	大内田鶴子	住民の立場からの防災体制改善に関する考察—日米比較の視点から—A consideration about Disaster Prevention Schemes from Residents' Standpoint : Making Comparisons of Japan and America	日本都市学会年報45巻		大規模災害時における、消防の能力不足について考察し、近隣や一次集団における自助・互助が重要であることを考察した。また日本においては、火消を源流とする市民部隊の伝統が生きており、消防団を再評価、強化する必要性を述べた。	http://www.toshigaku.org/	A	3		なし	touchi@edogawa-u.ac.jp	なし
98	2012年5月	復興	論文	西野淑美・大堀研・秋田典子	岩手県釜石市民の被災実態と復興への示唆：東日本大震災後の意識調査結果より	『日本都市学会年報』45号		タイトルの意識調査の分析から、釜石で見られる職業の違いと被害の差の重なり、世帯分離の発生、若い世代が市中心部への居住を志向する傾向、持家再建志向の強さなどを示した。	なし	C	2		なし	東洋大学社会学部西野淑美研究室 y_nishino@toyoyo.jp	なし
99	2012年6月	復興	論文	東日本大震災女性支援ネットワーク調査チーム(「支援者調査」担当 池田恵子・柘植あづみ)	調査チーム報告	東日本大震災女性支援ネットワーク報告会「災害・復興とジェンダー～被災地の声を政策に～」		「支援者調査」報告	http://risetogetherjp.org/?p=2293	E	3		東日本大震災女性支援ネットワーク	〒113-0023 東京都文京区向丘1-7-8 office@risetogetherjp.org	ジェンダーとマイノリティの視点からの支援、復興・防災計画等について調べてきました。2012年10月に報告書をまとめました。目次、入手方法はwebサイトをご覧ください。
100	2012年	復興	論文	牧野友紀	「東日本大震災の津波被災地における小経営の存立と家族構成—岩手県陸前高田市K和菓子店を事例として」	『社会学研究』91:175-194、東北社会学研究会。									
101	2012年	復興	論文	本多創史	「再帰する優生思想」	小熊英二・赤坂憲雄編『辺境からはじまる東京／東北論』明石書店：89—121。									
102	2012年	復興	論文	大矢根淳	「被災へのまなざしの叢生過程をめぐって—東日本大震災に対峙する被災地復興研究の一端—」	『環境社会学研究』18:96-111。									
103	2012年5月	分類不能	論文	山口博史	大規模災害への国内大学留学生関連スタッフの対応：東日本大震災フィールドノートからの予備的考察	大学リポジトリ		東日本大震災の被害やその派生的影響に対し、日本国内の大学の留学生交流に関わるスタッフがいかなる対応を行なったかについて、現地調査に基づき検討した。	http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/jspui/handle/2237/16323	A	3	J	なし	山口博史 hiroshii@nagoya-u.ac.jp	なし
104	2012年10月	防災	テレビ番組	谷下雅義監修	「被災地域と協創するエコツーリズム」	第86回知の回廊(中央大学)			http://www.youtube.com/watch?v=5WoJ628zXGI						
105	2012年5月	防災	口頭報告	仁平典宏	「(災間)の思考——繰り返す3・11の日付のために」	赤坂憲雄・小熊英二編『「辺境」からはじまる——東京/東北論』明石書店 4章 pp.122-158	無								
106	2012年5月	防災	口頭報告	大内田鶴子	Mapping Community against Disaster	Neighborhoods,USA 2012conference in Indianapolis, ID USA での発表		流山市における、安心・安全多様な協働事業のなかで、e-防災マップを協議会メンバーの参加によって作成した。防災意識への啓発以外に、街づくりにとっても意義があることを報告した。デジタルの地図が情報の蓄積と住民参加によって効果的なツールであることが分かった。	なし	G	3	D, I	なし	touchi@edogawa-u.ac.jp	なし
107	2012年10月	防災	口頭報告	平井太郎	広域災害における自治体間支援をめぐる社会学的課題	第49回日本都市学会報告要旨集p.18		東日本大震災時に活発化した自治体間支援と、その後の支援体制の法制化の概況を整理したうえで、法制度によらない支援体制の構築の重要性と可能性を展望した。	なし	A,C	3		弘前大学大学院地域社会研究科	平井太郎 of-hirai@nifty.com	なし

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
108	2012年	防災	口頭報告	谷下雅義	「復興まちづくりと防潮堤」	日本測量者連盟第8分科会報告	無		http://www.jsurvey.jp/jfs/bunka/bunka8-3.pdf						
109	2012年4月	防災	論文	中澤秀雄	「災害によって弁護がうまれる」	『白門』64(4): pp.4-5.	無								
110	2012年4月	防災	論文	谷下雅義	「陸前高田ふるさと再生の支援:千年を見据えて(前編・後編)」	『Chuo Online』『オピニオン』コーナ	無		http://www.yomiuri.co.jp/adv/chuo/opinion/20120416.htm http://www.yomiuri.co.jp/adv/chuo/opinion/20120423.htm						
111	2012年5月	防災	論文	仁平典宏	「二つの震災と市民セクターの再編——3.11被災者支援に刻まれた「統治の転換」の影をめぐって」	福祉社会学会編『福祉社会学研究』9 pp.98-118	有								
112	2012年6月	防災	論文	仁平典宏	「市民社会・ネオリベリズム・3.11——楢町の再構築に向けて」	東海社会学会編『東海社会学会年報』4 pp.34-43	有								
113	2012年9月	防災	論文	仁平典宏	「3・11ボランティアの「停滞」問題を再考する——1995年のパラダイムを超えて」	長谷部俊治・船橋晴俊編『持続可能性の危機——地震・津波・原発事故災害に向き合って』御茶の水書房 6章 pp.159-188	無								
114	2012年9月	防災	論文	中澤秀雄	ポスト3.11(災間期)の社会運動と地域社会の再生	大原社会問題研究所雑誌647号	有	フクシマ以降の社会運動の課題を議論	なし		3		なし	中澤秀雄 nakazawa@tamacc.chuo-u.ac.jp	なし
115	2012年9月	防災	論文	中澤秀雄	三陸沿岸からみる災害地域再生の法的問題	Chuo Online	無	三陸沿岸の復興過程で観察された法的問題の中間報告	http://www.yomiuri.co.jp/adv/chuo/research/20120927.htm		2		なし	中澤秀雄 nakazawa@tamacc.chuo-u.ac.jp	なし
116	2012年11月	防災	論文	谷下雅義	「現場で求められる知の総合化」	都市計画家協会, 防潮堤連続インタビュー(1)	無		http://webplanners.net/2012/11/16/234/						
117	2012年10月	ボランティア	特集	東日本大震災女性支援ネットワーク・調査チーム(「支援者調査」担当 池田恵子・柘植あづみ)	東日本大震災女性支援ネットワーク調査チーム報告書 第1部 東日本大震災における支援活動の経験に関する調査報告書	東日本大震災女性支援ネットワーク		女性団体、行政、NPO、個人など様々な立場で支援活動をされてきた方々が、女性や多様な立場の人々への支援を始めたきっかけや、女性やマイノリティのニーズを知るための工夫、今後さらに女性支援を活かす体制、支援者の困難などの聞き取り調査結果をまとめた。B5版158頁。	http://risetotogetherjp.org/ 目次を公表	E	3		東日本大震災女性支援ネットワーク 〒113-0023 東京都文京区向丘1-7-8 office@risetotogetherjp.org	ジェンダーとマイノリティの視点からの支援、復興・防災計画等について調べてきました。2012年10月に報告書をまとめました。目次、入手方法はwebサイトをご覧ください。	
118	2012年3月	ボランティア	報告書	弘前大学人文学部ボランティアセンター	災害ボランティア活動に関する意識調査報告書	HUVC報告書		2011年11・12月に、弘前市・弘前大学が運営する災害ボランティア活動への参加者に対して行った察的調査。191名の回答を得た。ボランティアへの参加動機、経験、変化、満足度などの項目について分析を行っている。	なし	B	2		弘前大学ボランティアセンター huvcc@cc.hirosaki-u.ac.jp	なし	
119	2012年1月	ボランティア	論文	中澤秀雄・鈴木博人・都留康子・小室夕里・宮丸裕二	中央大学の被災地ボランティア『冬ボラ』報告—入門編を越えて継続へ—	Chuo Online		中央大学の冬季ボランティアと被災地の現状についての報告	http://www.yomiuri.co.jp/adv/chuo/education/20120126.htm		2		なし	中澤秀雄 nakazawa@tamacc.chuo-u.ac.jp	なし
120	2012年1月	ボランティア	論文	中澤秀雄	被災地支援と災害文化	中央評論278号		中央大学の被災地支援の現状と見直し、災害文化についての若干の考察	なし		2		なし	中澤秀雄 nakazawa@tamacc.chuo-u.ac.jp	なし
121	2012年2月	ボランティア	論文	菅磨志保	「災害ボランティアをめぐる課題」	関西大学社会安全学部編『検証東日本大震災』ミネルヴァ書房:236—252.									
122	2012年6月	ボランティア	論文	湯浅正恵	「3.11後、痛みを生きる」	ボランティア学会2011年度学会誌		避難者へのインタビューから、タラレ・アサドの論考を手掛かりに「痛み」について考察した。	なし	A	1	B, F, H	なし	湯浅正恵 yuasa@intl.hiroshima-cu.ac.jp	なし

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1) 原発事故関連 2) それ以外 3) 両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
123	2012年	ボランティア	論文	齊藤康則	「原発被災地における「逗留者」の「活動の論理」——原発45km圏＝相馬市におけるボランティアとネットワーク」	『震災学』創刊号vol.1:156-185、荒蝦夷.									
124	2012年3月	メディア	口頭報告	伊藤守、岩上安身、増永良文、正村俊之	震災を乗り越える社会情報学-札幌学院大学総合研究所シンポジウム、札幌学院大学社会情報学部20周年記念	札幌学院大学総合研究所		シンポジウムの講演内容	http://www.res.sgu.ac.jp/	B	3		札幌学院大学総合研究所	札幌学院大学総合研究所 大学院・研究課(総合研究所担当)	IWJからこの講演が生中継されました。また、そのアーカイブがあります。
125	2012年6月	メディア	口頭報告	遠藤薫	日本学術会議公開シンポジウム「間メディア社会における「ジャーナリズム」—原発事故報道検証を踏まえて」	http://www.scj.go.jp/ja/event/pdf/2/148-s-1-2.pdf		メディア環境、社会情報過程の構造的な変容を視野に入れながら、福島原子力発電所の過酷事故をめぐって顕在化した諸課題を検証し、今後の教訓とすべき論点を明らかにする	なし	なし	3	H,J	なし	遠藤薫 kaoru.endo@gakushuin.ac.jp	
126	2012年3月	メディア	書籍	遠藤薫	『メディアは大震災・原発事故をどう語ったか—報道、ネット、ドキュメンタリーを検証する』	東京電機大学出版局		テレビ、新聞、ネット、ドキュメンタリー番組などが、大震災と原発事故をどのように語ったかを検証する	なし	なし	3	H,I,J	なし	遠藤薫 kaoru.endo@gakushuin.ac.jp	
127	2012年5月	メディア	書籍	花田達朗+教育学部 花田ゼミ	『新聞は大震災を正しく伝えたか—学生たちの紙面分析』	早稲田大学出版部		「東日本大震災新聞報道検証プロジェクト」震災、原発事故のあとのジャーナリズムの対応および傾向を朝・毎・読の在京3紙と地方紙の河北新報を事例に紙面分析するとともに、被災地や東京で新聞記者や編集幹部をインタビューし、それを分析に取り込んだ。学部ゼミの学生たちの共同研究成果であり、2012年5月10日にブックレットとして刊行した。	なし	G	3	A,B,J	早稲田大学教育学部花田研究室	花田達朗 hanada@waseda.jp	なし
128	2012年3月	メディア	論文	遠藤薫・他	日本マス・コミュニケーション学会60周年記念シンポジウム「震災・原発報道の検証—「3.11」と戦後日本社会」	『マス・コミュニケーション研究』81号(2012) p2-64		東日本大震災以降、日本のジャーナリズムは使命を十分に果たしてきたか？何が問題であり、その問題を生み出した要因は何なのか。	なし	なし	3	H,J	なし	遠藤薫 kaoru.endo@gakushuin.ac.jp	
129	2012年6月	メディア	論文	遠藤薫	「震災1年」をどう伝えたか—報道側の干渉や主張ではなく寄り添ったドキュメンタリーを	『GALAC』2012年6月号 p.26-27		震災1年の記念番組を検証した	なし	なし	3	H,J	なし	遠藤薫 kaoru.endo@gakushuin.ac.jp	
130	2012年1月	理論	口頭報告	松本三和夫	科学社会学者の視点	日本学術会議「計算科学から社会への情報の発信のあり方に関する検討ワーキンググループ」にて招待講演	無	日本学術会議総合工学委員会のワーキンググループでを行った講演の記録。SPEEDIのようなシミュレーションの結果を緊急時に当事者を含む社会の各成員にどこまで、どのような仕方で伝達するかに関する課題を抽出。	なし		3		なし	松本三和夫 miwao@l.u-tokyo.ac.jp	なし
131	2012年3月	理論	口頭報告	遠藤薫・他	日本社会学理論学会2011年度定例研究会シンポジウム「3.11以降の社会と理論」	http://sst-j.com/html/conference_2011.html		3・11の震災によって加速され深化されたという意味で、日本社会の構造的危機をとらえる。	なし	なし	3	H,I,J	なし	遠藤薫 kaoru.endo@gakushuin.ac.jp	
132	2012年5月	理論	口頭報告	松本三和夫	「構造災」の科学社会学—発電用原子炉をめぐる決定不全性—	総合人間学会年次大会にて招待講演	無	福島事故以降の状況の責任帰属問題を「事務局問題」として定式化した政策分析。	http://synthetic-anthropology.org/data/sa7%20leaflets.pdf		3		なし	松本三和夫 miwao@l.u-tokyo.ac.jp	なし
133	2012年5月	理論	口頭報告	今井信雄	「震災を忘れてるのは誰か？」	『<3.11以前>の社会学—阪神淡路大震災から東日本大震災へ』関西社会学会第63回大会シンポジウム	無								
134	2012年6月	理論	口頭報告	松本三和夫	「構造災」としての福島原発事故—これまで扱われてきていない問題—	日本再建シンポジウムにて招待講演	無	民間事故調の(財)日本再建イニシアティブと東京大学が共催した福島事故に関する公開シンポジウムでの発表。	http://bizmakoto.jp/makoto/articles/1206/21/news027.html		3		なし	松本三和夫 miwao@l.u-tokyo.ac.jp	なし
135	2012年9月	理論	口頭報告	田間泰子・山地久美子・松岡悦子	阪神・淡路大震災／東日本大震災と家族—リプロダクションをめぐって—	日本家族社会学会		妊産婦が被災にあたって直面した課題、支援における課題等について、ヒアリングにもとづき報告。	なし	C	2	A	なし	田間泰子 tama@hs.osakaifu-u.ac.jp	なし

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など	
136	2012年9月	理論	口頭報告	柘植あづみ	災害時(後)の女性の意思決定とその促進・抑制要因の検討—東日本大震災女性支援ネットワーク調査チームの調査から(2)—	国際ジェンダー学会2012年大会抄録集			なし	A	3		明治学院 大学社会学部 〒108-8636 東京都港区 白金台1-2-37	tsuge@soc.m ejigakuin.ac.jp	なし	
137	2012年9月	理論	口頭報告	池田恵子	災害時(後)の女性のニーズをいかに支援につなげるか—東日本大震災女性支援ネットワーク調査チームの調査から(1)—	国際ジェンダー学会2012年大会抄録集			なし	A	3		静岡大学 教育学部 〒422- 8529 静岡市駿 河区大谷 836	ekiked@ipc. shizuoka.ac.jp	なし	
138	2012年10月	理論	口頭報告	奥野卓司	「コンテンツ産業からの日本の強み・弱み〜「モノづくり」と「モノ語りづくり」の融合へ〜」	(社)国際経済労働研究所「日本の強み・弱みその仕分け」研究会第8回(於 東京都)2012年10月12日	無									
139	2012年10月	理論	口頭報告	奥野卓司	「「モノづくり」から「モノ語りづくり」へ・・・近世文化から「EV+サブカル」へ」	情報処理学会デジタルコンテンツシンポジウム招待講演(名古屋電気学園創立100周年記念)(於 愛知工業大学)2012年10月19日	無									
140	2012年10月	理論	口頭報告	Miwao Matsumoto	The 'Structural Disaster' behind Success or Failure	Paper presented at the 4S/EASST Joint Meeting	無	福島事故を「構造災」ととらえるかぎり、無限責任を有限化して社会的責任帰属を行うことが不可欠である理由を分析。	なし	F & H	3		なし	松本三和夫 miwao@l.u- tokyo.ac.jp	なし	
141	2012年11月	理論	口頭報告	松本三和夫	構造災の社会学—発電用原子炉をめぐる無限責任—	日本社会学会年次大会研究活動委員会テーマセッションにて発表	無	福島事故を「構造災」ととらえるかぎり、無限責任を有限化して社会的責任帰属を行うことが不可欠であることを指摘。	なし		3		なし	松本三和夫 miwao@l.u- tokyo.ac.jp	なし	
142	2012年11月	理論	口頭報告	松本三和夫	「構造災」の科学社会学—発電用原子炉をめぐる決定不全性—	社会経済システム学会にて基調講演	無		なし		3		なし	松本三和夫 miwao@l.u- tokyo.ac.jp	なし	
143	2012年9月	理論	書籍	松本三和夫	『構造災—科学技術社会に潜む危機—』	岩波書店	無	人災か天災かという二分法で福島事故を論じることのリスクを戦前から経路依存的に続く「構造災」の概念をとおして分析。	http://www.iwanami.co.jp/hensyu/sin/sin_kkn/kkn1209/sin_k669.html	F & H	3		なし	松本三和夫 miwao@l.u- tokyo.ac.jp	なし	
144	2012年10月	理論	書籍	松本三和夫	『知の失敗と社会—科学技術はなぜ社会にとって問題か—』	岩波書店(岩波人文書セレクションとして復刊)	無	福島事故の10年前に、巨大複合災害の可能性を「構造災」の概念をとおして最初に定式化した研究の新版。	http://www.iwanami.co.jp/BOOKS/02/7/0285630.html	F & H	3		なし	松本三和夫 miwao@l.u- tokyo.ac.jp	なし	
145	2012年	理論	書籍	小熊英二・赤坂憲雄編	『辺境からはじまる東京／東北論』	明石書店										
146	2012年10月	理論	特集	日本学術会議	「特集 日本そして世界へのメッセージ—3.11東日本大震災・原発災害後の社会福祉と社会学から—」	『学術の動向』2012年10月号										
147	2012年	理論	特集	福祉社会学会	「特集 東日本大震災と福祉社会の課題—(交響)と(公共)の臨界」	『福祉社会学研究』、9号、7-118、東信堂.										
148	2012年	理論	特集	環境社会学会	「特集 環境社会学にとって「被害」とは何か」	『環境社会学研究』、18号、有斐閣.										
149	2012年2月	理論	論文	川副早央里	「東日本大震災のいわき市への影響に関する一考察—<中心>と<周縁>の視点から—」	ソシオロジカルペーパーズ第21号		広域合併を経て誕生したいわき市の被災や復旧状況を考察し、市街地へと避難者の移動が集中し、市内の<中心>と<周辺>の構造が強化されていることを論じた	なし	AE	3		なし		なし	
150	2012年3月	理論	論文	松本三和夫	構造災としての原発災害	『サステナ』第23号、58-67頁		東京大学サステナビリティ学連携研究機構からの依頼で行った福島事故に関するインタビューの記録。	なし		1		なし	松本三和夫 miwao@l.u- tokyo.ac.jp	なし	

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1) 原発事故関連 2) それ以外 3) 両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
151	2012年3月	理論	論文	栗原彬(聞き手:天田城介)	「3.11論——人間の復興のために」	『生存学』5、生活書院			http://www.arsvi.com/m/sz005.htm	H	3	ABHI	京都市北区等持院北町56-1立命館大学生存学研究センター事務局		なし
152	2012年3月	理論	論文	正村俊之	「震災とリスク・コミュニケーション——日本社会におけるリスクの社会的構成」	『札幌学院大学総合研究所 BOOKLET4 震災を乗り越える社会情報学——札幌学院大学総合研究所シンポジウム・札幌学院大学社会情報学部開設20周年記念』札幌学院大学, pp.70-92	無								
153	2012年4月	理論	論文	古城利明・Michele Colafato	Il Triplo Disastro (The Triple Disaster)	Una Città n.193 (Aprile 2012), pp.28-31		東日本大震災のあとに国内外で沸き起こった日本賞賛論に疑問を呈し、脱原発の立場から大震災によって引き起こされた問題群をインタビュー方式で綴ったもの。	なし	G	3		なし	古城利明 furuki@jcom.home.ne.jp	なし
154	2012年4月	理論	論文	正村俊之	「第7章 金融恐慌にみるコミュニケーションの成立機制——神・貨幣・情報空間」	正村俊之編著『身体・メディア・情報空間——コミュニケーション論の新たな展開をめざして』勁草書房, pp. 283-263	無								
155	2012年4月	理論	論文	正村俊之	「1章 コミュニケーション論の系譜と課題」	正村俊之編著『身体・メディア・情報空間——コミュニケーション論の新たな展開をめざして』勁草書房, pp. 1-28	無								
156	2012年5月	理論	論文	正村俊之	「ポスト産業資本主義の論理:新自由主義はなにをもたらしたのか」	『フォーラム現代社会学』第11号,70-80	無								
157	2012年5月	理論	論文	Goodwin R, Takahashi M, Sun S, Gaines SO Jr	Modelling Psychological Responses to the Great East Japan Earthquake and Nuclear Incident	PLoS ONE 7(5): e37690. doi:10.1371/journal.pone.0037690		地震と原発事故に対するリスク意識の共通性として、家族や友人などのリスク意識との共振関係が挙げられる。他方、原発事故のリスク意識は、政府に対する信頼や制御可能性のなさ、メディア利用の形態などからの影響が大きい点で、地震に対するリスク意識と大きく異なる。	http://www.plosone.org/article/info%3Adoi%2F10.1371%2Fjournal.pone.0037690	A,H	3	B,D,J	山口大学 人文学部	高橋征仁 takahasi@yamaguchi-u.ac.jp	なし
158	2012年7月	理論	論文	奥野卓司	「クールジャパン戦略と市場のリンク」	『月刊 事業構想』2012年8月号、事業構想大学院大学、2012年7月10日									
159	2012年7月	理論	論文	松本三和夫	テクノサイエンス・リスクと知的公共財	盛山和夫ほか編『公共社会学』東京大学出版会、第1巻、193-211頁	無	福島事故以前に東京大学社会学研究室で行った科研費プロジェクトの成果の一部を刊行したもの。知的公共財としての科学技術リスクに関する情報を社会に蓄積するための制度設計における問題点を検討。	なし	C	3		なし	松本三和夫 miwao@l.u-tokyo.ac.jp	なし
160	2012年7月	理論	論文	Goodwin R, Takahashi M, Sun S, Gaines SO Jr	Modelling Psychological Responses to the Great East Japan Earthquake and Nuclear Incident	33rd Stress and Anxiety Research Society International Conference Palma de Mallorca, 2 - 4 th July 2012, Spain		地震と原発事故に対するリスク意識の共通性として、家族や友人などのリスク意識との共振関係が挙げられる。他方、原発事故のリスク意識は、政府に対する信頼や制御可能性のなさ、メディア利用の形態などからの影響が大きい点で、地震に対するリスク意識と大きく異なる。		H	3	B,D,J	山口大学 人文学部	高橋征仁 takahasi@yamaguchi-u.ac.jp	なし
161	2012年8月	理論	論文	久保田稔	「震災と医療・大学——学会参加と被災地訪問の記録より」	関西学院大学災害復興制度研究所ニューズレター『FUKKOU』vol.18、p.7	無								
162	2012年10月	理論	論文	松本三和夫	構造災——科学社会学の視点から	『UP』第41巻、第10号、16-21頁	無		なし		3		なし	松本三和夫 miwao@l.u-tokyo.ac.jp	なし
163	2012年10月	理論	論文	遠藤薫	東日本大震災をどう捉えるか~レジリエントな社会システムを目指して	『横幹』第6巻第2号p.71-78		社会システムという面から、東日本大震災を考える。	なし	なし	3	H,I,J	なし	遠藤薫 kaoru.endo@gakushuin.ac.jp	
164	2012年12月	理論	論文	小松丈晃	書評・松本三和夫著『テクノサイエンス・リスクと社会学』	『化学史研究』第39巻第4号、224-227頁	無								

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
165	2012年	理論	論文	Kukhee Choo	“Nationalizing“cool”---Japan’s global promotion of the content industry”	“Popular Culture and the State in East and Southeast Asia”, Nissim Otmazgin& Eyal Ben-Ari (Edit.), Routledge of the Taylor & Francies,2012	無								
166	2012年	理論	論文	島村恭則	「名取市下増田北釜」	高倉浩樹・滝澤克彦・政岡伸洋編『東日本大震災に伴う被災した民俗文化財調査2011年度報告集(宮城県地域文化遺産復興プロジェクト)』東北大学東北アジア研究センター, 50-65頁	無								
167	2012年	理論	論文	似田貝香門	「(災害時経済)とモラル・エコノミー試論」	『福祉社会学研究』福祉社会学会、(9):11-25.									
168	2012年3月	原子力災害・エネルギー	口頭報告	原口弥生	福島県から茨城県に避難している乳幼児家族・妊産婦の現状	国際開発学会「原発震災から再考する開発・発展のあり方」第2回研究部会、東京外国語大学	無								
169	2012年5月	原子力災害・エネルギー	口頭報告	原口弥生	災害回復力(レジリエンス)の再検討—自然・社会・技術	2012年度歴史学研究大会、東京外国語大学	無								
170	2012年6月	原子力災害・エネルギー	口頭報告	Haraguchi, Yayoi	Reviewing Resilience: Nature, Society, and Technology	上智大学アメリカ・カナダ研究所ソフィア・シンポジウム「カトリナ以後、3・11以後:表象・ポリティクス・文化」	無								
171	2012年12月	原子力災害・エネルギー	口頭報告	原口弥生	広域避難者の生活実態と支援ニーズ—茨城県避難者アンケート調査結果報告	環境社会学会第46回大会、東京都市大学	無								
172	2012年12月	原子力災害・エネルギー	口頭報告	原口弥生	茨城県における避難者の現状と支援	第3回社会学系4学会合同集会	無								
173	2012年3月	原子力災害・エネルギー	書籍	船橋晴俊・長谷川公一・飯島伸子	『核燃料サイクル施設の社会学—青森県六ヶ所村』	有斐閣	無								
174	2012年9月	原子力災害・エネルギー	書籍	長谷部俊治・船橋晴俊編	『持続可能性の危機—地震・津波・原発災害に引き合って』	御茶の水書房	無								
175	2012年12月	原子力災害・エネルギー	書籍	五十嵐泰正+「安全・安心の柏産柏消」円卓会議	みんなで決めた安心のかたち—ポスト3.11の地産地消をさがした柏の一年	亜紀書房		「安全・安心の柏産柏消」円卓会議による一年間の取り組みについての報告、参加者のインタビューおよび、当該プロジェクトから見える地域と農業をめぐる諸問題についての考察	なし	H	1		「安全・安心の柏産柏消」円卓会議	五十嵐泰正 VYL03222@nifty.com	なし
176	2012年	原子力災害・エネルギー	報告書	日本学術会議課題別委員会高レベル放射性廃棄物の処分に関する検討委員会	「回答」										
177	2012年2月	原子力災害・エネルギー	論文	五十嵐泰正(インタビュー)	ホットスポットとよばれた地域がつくる「安心」とは—「安全・安心の柏産柏消」円卓会議が目指すもの(前編・後編)	αSYNODOS vol.94, vol.96		「安全・安心の柏産柏消」円卓会議による取り組みの背景と狙いについての報告	http://synodos.jp/mail-magazine	H	1		「安全・安心の柏産柏消」円卓会議	五十嵐泰正 VYL03222@nifty.com	なし
178	2012年3月	原子力災害・エネルギー	論文	船橋晴俊	Why the Fukushima Nuclear Disaster is a Man-made Calamity	IJJS, No.21:65-75	有								
179	2012年3月	原子力災害・エネルギー	論文	柳瀬徹(シノドス編集部)	柏市で再生される「信頼」のかたち—「農地を測る/農地を見せる」で何がかわるか	SYNODOS ジャーナル		円卓会議による個別農家ごとの放射能測定プログラムについての取材記事	http://synodos.livedoor.biz/archives/1913579.html	H	1		「安全・安心の柏産柏消」円卓会議	五十嵐泰正 VYL03222@nifty.com	なし
180	2012年3月	原子力災害・エネルギー	論文	関西学院大学 Zero Carbon Society研究センター	特集「東日本大震災後における移動の価値観の変容」	『Zero Carbon Society研究センター紀要』第1号、pp.27-48		「3.11」以降の生活者にとっての技術・移動価値の変容を解説し、復興を目指すべき社会像を提示するべく、研究センター紀要において特集を設けた。	なし	B	3		なし	奥野卓司 okuno@kwansei.ac.jp	なし
181	2012年5月	原子力災害・エネルギー	論文	川副早央里・浦野正樹	「原発災害の影響と復興への課題—いわき市の地域特性と被災状況の多様性への対応—」	日本都市学会年報vol.45		いわき市での聞き取り調査をもとに、いわき市の被災状況と復興への課題を報告した	なし	ACE	3		なし		なし
182	2012年7月	原子力災害・エネルギー	論文	船橋晴俊	「エネルギー戦略シフトと地域自然エネルギー基本条例」	『月刊自治研』2012年7月号、第54巻634号、29-37.	無								
183	2012年8月	原子力災害・エネルギー	論文	中川尚子・蓮井誠一郎・原口弥生	「米・小麦・牛乳の放射能汚染と学校給食—すべての子どもを守るための具体的提言」	『科学』82(8月号)、pp.847-853.	無								

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など	
184	2012年9月	原子力災害・エネルギー	論文	西山昇・今田高俊	ゼロリスク幻想と安産神話のゆらぎ—東日本大震災と福島原子力発電所事故を通じた日本人のリスク意識の変化	View & Vision, No.34, 千葉商科大学経済研究所, pp.57-64.		人々の「ゼロリスク要求」が適切な情報共有を妨げることになる。これを防ぐためには、信頼を回復させるリスクコミュニケーションが必要となる。信頼関係を持ったステークホルダー同士での熟議が求められる。	なし	C	3	H	なし	今田高俊 imada@valde s.titech.ac.jp	なし	
185	2012年10月	原子力災害・エネルギー	論文	原口弥生	「災害回復力(レジリエンス)の再検討—自然・社会・技術」	『歴史学研究 増刊号』(歴史学研究会),898号, pp.194-202.	有									
186	2012年12月	原子力災害・エネルギー	論文	原口弥生・中川尚子・蓮井誠一郎	「放射線問題に向き合う教育現場(前)」	月刊 高校教育』(2012年12月号)45/13, pp. 78-81.	無									
187	2012年12月	原子力災害・エネルギー	論文	湯浅正恵	「揺らぐ広島・長崎データ:IPPNW世界大会に参加して」	広島ジャーナリストp.78-p.85		福島原発事故後の低線量被曝とその健康被害についての核戦争防止医師会会議(IPPNW)の世界大会での議論を報告し、その背景にある広島・長崎の被曝者データをめぐる政治について分析した。	なし	G	1	B	なし	湯浅正恵 yuasa@intl.hi roshima- cu.ac.jp	なし	
188	2012年12月	原子力災害・エネルギー	論文	今田高俊・船橋晴俊	高レベル放射性廃棄物をめぐる新たな議論の枠組み—日本学術会議からの提言	『科学』Vol.82 No.12, pp. 1295-1300		原子力委員会からの日本学術会議に対して審議依頼があった、原発にともなう高レベル放射性廃棄物の処分について、根本から問い直す必要性を指摘し、総量管理と暫定保管を提案するとともに、処分の在り方をめぐって国民的議論の必要性を指摘している。	なし	なし	2	G	なし	今田高俊 imada@valde s.titech.ac.jp	なし	
189	2012年5月	復興	口頭報告	高木竜輔	「原発事故一年後の原発避難者の生活再編—檜葉町を事例として—」	第37回地域社会学会大会		2012年2月に実施した檜葉町民を対象とした質問紙調査データを用いて、原発避難者の一年後の避難生活ならびに生活再編の現状について報告した。	なし	A	1	B, C, E	なし	高木竜輔 r- takaki@iwaki mu.ac.jp	なし	
190	2012年7月	復興	口頭報告	加藤眞義・佐藤彰彦・高木竜輔	「福島第一原発事故災害の現状と復興課題」	公開シンポジウム シリーズ 社会学から、東日本大震災を問い直す1 東日本大震災・再生への道程を問い直す—社会学と計画学との対話	無	原発事故後になされた社会学による調査研究に関するレビューをおこない、研究の特徴ならびに欠けている研究分野について整理した。	なし	C	1	B, C, E	なし	高木竜輔 r- takaki@iwaki mu.ac.jp	なし	
191	2012年7月	復興	口頭報告	内田龍史	「名取市沿岸部の津波被災地をフィールドとして」	「シリーズ 社会学から、東日本大震災を問い直す1 東日本大震災・再生への道程を問い直す—社会学と計画学との対話」(日本学術会議社会学委員会・東日本大震災の被害構造と日本社会の再建の道を探る分科会(震災再建分科会)・科学研究費基盤(A)「東日本大震災と日本社会の再建—地震、津波、原発震災の被害とその克服の道」(代表・加藤眞義)プロジェクトチーム)、東北大学	無									
192	2012年11月	復興	口頭報告	内田龍史	「津波被災地周辺地域の住民の経験—宮城県名取市住民意識調査から」	第85回日本社会学会大会、札幌学院大学	有									
193	2012年3月	復興	論文	渡戸一郎	「震災を経て、いま感じていること」	『ネットワーク』(東京ボランティア市民活動センター),317号,2-3	無									
194	2012年3月	復興	論文	浅川達人	東日本大震災復興支援活動と地域再生—岩手県大槌町吉里吉里地区を事例として—	『明治学院大学社会学・社会福祉学研究』,第138号, pp.1-17	無	明治学院大学ボランティアセンターが行った緊急支援活動、復興支援活動についてまとめた上で、社会科学の貢献のあり方について考察した。	なし	B, D	2	A E F	なし	浅川達人 asakawa@soc .meijigakuin.a c.jp	なし	
195	2012年4月	復興	論文	吉野英岐	「沿岸被災地の生活を維持するために必要なこと」	『農業と経済 臨時別冊 大震災と農業・農村—どう立ち向かうか、どう支えるか—』臨時別冊,『農業と経済』編集委員会,42-48	無	津波被災地の生活の復興で課題となる点を整理し提示した。特に人口減少が見込まれることから、今後の生活の利便性を維持する点から住民全員へのタブレットの供与など、情報インフラの整備を提言した。								
196	2012年4月	復興	論文	浅川達人	東日本大震災における被災者の生活再建と大学の役割—震災が浮き彫りにした生活調査の課題—	『社会福祉研究』,第113号, pp.2-8	有	明治学院大学ボランティアセンターが行った緊急支援活動、復興支援活動についてまとめた上で、生活調査の課題と大学の役割について述べた。	http://www.kousaikai.or.jp/kousai/research.html	B, D	2	A E F	なし	浅川達人 asakawa@soc .meijigakuin.a c.jp	なし	

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1) 原発事故関連 2) それ以外 3) 両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
197	2012年5月	復興	論文	吉野英岐	「東日本大震災を体験して—被災地で教育研究に携わる者として—」	『地域社会学会年報』第24号, 地域社会学会, 143-150	無	被災地で教育研究と生活をおくる者として、災害発生時の体験を記したうえで、大学教育や被災地との関係のあり方について論じた。							
198	2012年6月	復興	論文	内田龍史	「八木正編『原発は差別で動く——反原発のもうひとつの視角[新装版]』を読む」	『寄せ場』25号、252-259									
199	2012年7月	復興	論文	吉野英岐	「東日本大震災後の農山漁村コミュニティの変容と再生—岩手県沿岸地域での調査から」	『コミュニティ政策』第10号, コミュニティ政策学会, 61-84	無	被災直後の避難者の生活を守る点で、自治会などの地域住民組織がどのような役割を果たしたのかを明らかにして、その背景にある地域社会の統合をもたらす2つの体系について論じた。							
200	2012年10月	復興	論文	内田龍史	「国勢調査小地域集計から見る神戸市B地区の変化と現状」	『部落解放研究』195号、30-42	有								
201	2012年10月	復興	論文	浅川達人	東日本大震災復興支援活動と地域再生—岩手県大槌町吉里吉里を事例として	『学術の動向』vol.17 no.10, pp.70-75	無	津波被災地が抱えている生活問題を指摘した上で、地域再生のために必要とされていることを指摘した。	http://www.h4.dion.ne.jp/~jssf/text/doukousp/index.html	B, D	2	A E F	なし	浅川達人 asakawa@soc.meijigakuin.ac.jp	なし
202	2012年11月	復興	論文	内田龍史	「全国部落青年の雇用・生活実態調査結果(2)——量的データの特徴」	『部落解放研究』196号、7-28	有								
203	2013年	医療・福祉	論文	板倉有紀	「東日本大震災における「支援」と「ケア」」	『社会学年報』42: 17-29.									
204	2013年10月	データベース	ウェブ	日本社会学会東日本大震災関連ウェブサイト(2013年10月1日現在)					(http://www.gakkai.ne.jp/jss/2011/09/17111811.php)						
205	2013年5月	データベース	口頭報告	岩井紀子・宍戸邦章	Impact of the Great East Japan Earthquake, Tsunami, and the Fukushima Nuclear Accident on Japanese People's Attitudes and Behavior: A study based on Japanese General Social Surveys	EASS (East Asian Social Survey) Conference, Sungkyunkwan University, Seoul.	無	JGSSのデータをもとに、東日本大震災と福島原子力発電所の事故が、人々の意識と行動に与えた影響—社会関係資本、リスク認知、節電行動—を検討した。原発事故の発生可能性についてのリスク認知が、原子力政策に関する意見に与える影響の大きさは、調査対象者の住む地域から最も近い原発までの距離により異なることが見出された。	なし	D	3	B,F,G,I	なし	岩井紀子 n-iwai@tcn.zaq.ne.jp	なし
206	2013年5月	データベース	口頭報告	岩井紀子・宍戸邦章	Impact of the Great East Japan Earthquake, Tsunami, and the Fukushima Nuclear Accident on Japanese People's Attitudes and Behavior: A study based on Japanese General Social Surveys	WAPOR (World Association for Public Opinion Research) 66th Annual Conference, Boston.	無	JGSSのデータをもとに、東日本大震災と福島原子力発電所の事故が、人々の意識と行動に与えた影響—社会関係資本、リスク認知、節電行動—を検討した。原発事故の発生可能性についてのリスク認知が、原子力政策に関する意見に与える影響の大きさは、調査対象者の住む地域から最も近い原発までの距離により異なることが見出された。	http://wapor.unl.edu/wp-content/uploads/2013/04/Final_Program.pdf	D	3	B,F,G,I	なし	岩井紀子 n-iwai@tcn.zaq.ne.jp	なし
207	2013年10月	データベース	口頭報告	岩井紀子	「社会学研究者による「震災関連研究・支援活動」—メタデータの取りまとめを通してみた研究活動の概要」	第86回日本社会学会大会シンポジウム「ポスト3.11の社会学——東日本大震災後の日本社会に対して、社会学者は何をなし得るか」、慶應義塾大学, 10月13日	無								
208	2013年1月	データベース	論文	岩井紀子・柴田由己	東日本大震災が仕事に与えた影響	日本政策金融公庫『調査月報』1月号	無	東日本大震災が仕事に与えた影響について、地域等の差異を検討した。地域差については、東北と関東ブロックを被災状況により区分して分析した。また、仕事に何らかの影響があったかどうかについては、都道府県レベルの分析を行った。	http://www.jfc.go.jp/n/findings/pdf/tyousa_gttupou_1301.pdf	D	3	J	JGSS研究センター jgss@daishodai.ac.jp	JGSS研究センター jgss@daishodai.ac.jp	なし
209	2013年2月	データベース	論文	宍戸邦章・武内智彦	東日本大震災の寄付行動とボランティア活動	日本政策金融公庫『調査月報』2月号	無	JGSS-2012のデータに基づき、東日本大震災が日本人の寄付行動やボランティア活動に与えた影響を検証した。寄付行動については、JGSS-2005との比較分析を、ボランティア活動についてはJGSS-2010との比較分析を行った。回帰分析により、どのような属性をもつ層において寄付行動やボランティア活動が震災によって活発化したのかを明らかにした。	http://www.jfc.go.jp/n/findings/pdf/tyousa_gttupou_1302.pdf	D	3	F	JGSS研究センター jgss@daishodai.ac.jp	JGSS研究センター jgss@daishodai.ac.jp	なし

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など	
210	2013年3月	データベース	論文	佐々木尚之・濱田国佑	節電行動と再生可能エネルギーの利用状況	日本政策金融公庫『調査月報』3月号	無	JGSS-2012のデータに基づき、東日本大震災が日本人の節電行動やエコ商品の利用に与えた影響を検証した。JGSS-2010との比較分析を行った。回帰分析により、どのような属性をもつ層において節電行動やエコ商品の利用が震災によって活発化したのかを明らかにした。	http://www.jfc.go.jp/n/findings/pdf/tyousa_gttupou_1303.pdf	D	3	G	JGSS研究センター	JGSS研究センター jgss@daishodai.ac.jp	なし	
211	2013年3月	データベース	論文	遠藤薫	東日本大震災と分断される社会・政治意識—2012年6月実施の社会調査結果を踏まえて	『学習院大学 法学会雑誌』48巻2号		東日本大震災によって日本の社会・政治意識にどのような変化が生じたかを、2012年6月に実施したインターネット調査をもとに分析した。	なし	なし	3	H,I	なし	遠藤薫 kaoru.endo@gakushuin.ac.jp		
212	2013年5月	データベース	論文	岩井紀子・宍戸邦章	社会学研究者による「震災関連研究・支援活動」のメタデータ収集の経緯と今後	『災後の社会学』No.1, pp. 47-68	無									
213	2013年12月	データベース	論文	岩井紀子・宍戸邦章	「東日本大震災・福島第一原子力発電所の事故が災害リスクの認知および原子力政策への態度に与えた影響」	『社会学評論』64(3), 420-438	有									
214	2013年2月	避難住民	口頭報告	植田今日子	「津波常習地の海にみる領域意識」	関西学院大学先端社会研究所, 2012年度定期研究会(関西学院大学大学院 社会学研究科「エッジの社会学」研究会と共催), 2013年2月23日	無									
215	2013年3月	避難住民	口頭報告	高橋征仁	「広域避難をめぐる多様性—近地避難と遠地避難—」	山口大学研究推進体「東日本大震災における避難者のリスク意識と社会的ネットワークに関する比較研究」公開シンポジウム「東日本大震災から3年を迎えて」、於:山口大学大会館(山口市)	無									
216	2013年3月	避難住民	口頭報告	加藤真義	「福島の被災と定住/避難の支援」	山口大学公開シンポジウム「東日本大震災3年目の課題—山口で考える広域避難と被災者支援のあり方—」山口大学	無									
217	2013年5月	避難住民	口頭報告	佐藤彰彦, 山下祐介, 山本薫子, 高木竜輔	「原発避難者を取り巻く問題の構造(2)—タウンミーティングの結果から」	地域社会学会第38回大会(立命館大学), 2013年5月10日										
218	2013年5月	避難住民	口頭報告	山下祐介, 佐藤彰彦, 山本薫子, 高木竜輔	「原発避難者を取り巻く問題の構造(1)—避難者調査の概要と課題」	地域社会学会第38回大会(立命館大学), 2013年5月10日										
219	2013年5月	避難住民	口頭報告	高橋征仁	「コンコルドの誤謬—社会学者の嵌った罠」	西日本社会学会第71回大会 於:琉球大学	無									
220	2013年5月	避難住民	口頭報告	西崎伸子	「原発災害と地域研究」	日本アフリカ学会第50回学術大会特別フォーラム「アフリカ研究の手法」、於:東京大学駒場キャンパス	無									
221	2013年6月	避難住民	口頭報告	Nishizaki, Nobuko	Hunting and Fukushima Nuclear Power Plant Accident	International Symposium on Society and Resource Management, at Estes Park, Colorado, USA	無									
222	2013年6月	避難住民	口頭報告	山本薫子	「原発避難者とは誰か—連帯の困難と分断をめぐる問題」	関東社会学会第60回大会テーマ部会A「リスク・個人化・社会不安(社会運動・社会政策)II」(一橋大学), 2013年6月16日										
223	2013年8月	避難住民	口頭報告	UEDA Kyoko	Seawall Construction after the Attack of Tsunami: a mistaken boundary of fishing villages	17th World Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences in Manchester, U.K., August, 2013										
224	2013年8月	避難住民	口頭報告	松井克浩	「災害後の地域のつながりと“こころの問題”」	新潟PTSD対策専門研修会「こころを大切にすること〜被災者のこころの回復を願って 中越から東北へ〜」、於:新潟ユニゾンプラザ	無									
225	2013年9月	避難住民	口頭報告	佐藤彰彦	「復興過程における政策上の諸課題と構造的な問題—避難生活者の自助活動とアクションリサーチからの一考察」	日本計画行政学会第36回全国大会(宮城大学), 2013年9月6日										
226	2013年9月	避難住民	口頭報告	橋本撰子	「社会学理論の“実用性”:原発事故と『復興』をめぐる一考察」	第8回社会学理論学会シンポジウム, 於:成城大学	無									

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
227	2013年9月	避難住民	口頭報告	西崎伸子	「原子力災害後に多様化する草の根の保養支援活動とその意義」	日本地理学会・シンポジウム「3.11以後の地理学は何をなすべきか？ たたかう地理学の視点から」, 於:福島大学	無								
228	2013年9月	避難住民	口頭報告	千葉悦子	「持続可能な社会づくりと社会教育・成人教育—3.11後の日本社会からの発信—」	日本社会教育学会60周年記念国際シンポジウム基調報告, 於:学術総合センター	無								
229	2013年10月	避難住民	口頭報告	高橋征仁	「広域避難とレジリエンス」	関西学院大学災害復興研究所第11回原発避難者支援制度研究会, 於:関西学院大学東京丸の内キャンパス	無								
230	2013年10月	避難住民	口頭報告	吉田耕平	「原発避難における自助団体と交流機会の形成について—遠方避難先における相双市町村の組織化事例から」	日本災害復興学会2013年大阪大会, 関西大学ミューズキャンパス, 2013年10月12日	無								
231	2013年10月	避難住民	口頭報告	植田今日子・酒井朋子	「記憶地図を描く—気仙沼市唐桑町宿における試み—」	2013年度「東北民俗の会」10月例会, 2013年10月19日	無								
232	2013年11月	避難住民	口頭報告	高橋征仁	「弱い絆の強さ—沖縄県における原発避難者のネットワーク」	日本社会心理学会第54回大会, 於:沖縄国際大学	無								
233	2013年11月	避難住民	口頭報告	松井克浩	「『故郷』の喪失と再生」	東北大学グローバル安全学トップリーダー育成プログラム「災害と社会変動—安全・安心に生きるために」, 於:東北大学	無								
234	2013年	避難住民	口頭報告	TAKAHASHI, Masahito	“Weighing the Costs of 311 Tsunami Disaster: An Examination of Bonanno's 5 Hypotheses”	UK - Japan Symposium and Workshop on Disasters, UCL, London, UK	無								
235	2013年	避難住民	口頭報告	高橋征仁	「沖縄避難者支援レポート～弱い絆の強さ～」	3.11被災地に思いをよせる宇部市民の集い(福島の子どもたちとつながる宇部の会), 於:ヒストリア宇部	無								
236	2013年	避難住民	口頭報告	TAKAHASHI, June	The Disaster, Evacuation, and Present Fukushima	The 2nd International Science Fiction Symposium (Extra Seminar), at Fukushima University	無								
237	2013年	避難住民	口頭報告	高橋準	「震災と男女共同参画——考える視点、地域の課題」	2013年度国際女性教育振興会福島県支部総会記念講演, 於:福島県男女共生センター	無								
238	2013年	避難住民	口頭報告	小松田儀貞	「“復興支援のかたち” 震災復興への支援とは～秋田の大学生ボランティアの活躍～」	秋田県生涯学習センター講座, 於:秋田県生涯学習センター	無								
239	2013年	避難住民	口頭報告	松井克浩	「中越地震の経験から考えること」	日本村落研究会東北地区研究会 於:東北大学	無								
240	2013年4月	避難住民	書籍	金菱 清(編)	『千年災禍の海辺学 —なぜそれでも人は海で暮らすのか』	生活書院 259頁	無								
241	2013年7月	避難住民	書籍	東北学院大学トポフィアプロジェクト(植田今日子代表)編	『更地の向こう側—解散する集落「宿」の記憶地図』	かもがわ出版:120頁	無								
242	2013年11月	避難住民	書籍	山下祐介, 市村高志, 佐藤彰彦	『人間なき復興—原発避難と国民の「不理解」をめぐる』	明石書店	無								
243	2013年11月	避難住民	書籍	「ふくしま、わたしたちの3.11」証言記録集・制作委員会編(※高橋準が委員として参加)	『ふくしま、わたしたちの3.11—30人のHer Story』	「ふくしま、わたしたちの3.11」証言記録集・制作委員会。	無								
244	2013年	避難住民	報告書	加藤真義・高橋準編		『東日本大震災および原発事故によって生じた避難生活の実態と課題』, 福島県男女共生センター 平成24年度 地域課題研究報告書	無								
245	2013年1月	避難住民	論文	西崎伸子	「原発事故後の福島県の乳幼児家族を支える取り組み」	『福島の進路』, 1月号	無								
246	2013年1月	避難住民	論文	岩間 信之, 佐々木 緑, 田中 耕市, 駒木 伸比古, 浅川 達人	「東日本大震災被災地における食料品小売業の復興プロセスと仮設住宅居住者の生活環境問題」	E-journal GEO Vol.7, No.2, pp.178-196	有								
247	2013年2月	避難住民	論文	小松田儀貞	「バイオテクノロジーと生政治(バイオポリティクス)の未来—生命科学/技術と現代社会のゆくえ—」	北川隆吉・中山樹樹編『科学・技術革新・人間(21世紀への挑戦4)』, 日本経済評論社, 53-87頁	無								

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
248	2013年2月	避難住民	論文	西崎伸子	「避難区域外の児童生徒等の放射線防護 についての一考察——学校再開問題と20 ミシーベルト問題の検証から」	『シンドスジャーナル』2013年2月14日配信	無								
249	2013年3月	避難住民	論文	浅川達人	『『吉里吉里語辞典』アーカイブ化プロジェ クト?その社会的意義について?』	『Socially』vol.21, pp.15-20	無								
250	2013年3月	避難住民	論文	金菱清	「千年災禍の所有とコントロール」	田中重好・船橋晴俊・正村俊之編『東日本 大震災と社会学—大災害を生み出した社 会—』ミネルヴァ書房:103-130頁	無								
251	2013年3月	避難住民	論文	加藤真義	「不透明な未来への不確実な対応の持続と 増幅—「東日本大震災」後の福島の事例」	田中重好・船橋晴俊・正村俊之編『東日本 大震災と社会学—大災害を生み出した社 会—』ミネルヴァ書房 259-274頁	無								
252	2013年3月	避難住民	論文	高橋征仁	沖縄県における原発事故避難者と支援ネッ トワークの研究1~弱い絆の強さ	山口大学文学会志第63巻、79-97頁	無	震災研究における「弱い絆の強さ」のコン セプトを検討し、沖縄県における避難の 現状と支援体制を検討する	なし	B	I	B,C,D	山口大学 人文学部	高橋征仁 takahasi@ya maguchi- u.ac.jp	なし
253	2013年4月	避難住民	論文	松菌祐子	「警戒区域からの避難をめぐる状況と課題 ——帰還困難と向き合う富岡町の事例か ら」	『環境と公害』第42巻第4号:31-36、岩波 書店.	無								
254	2013年4月	避難住民	論文	松井克浩	「「場所」をめぐる感情とつながり——災害 による喪失と再生を手がかりとして」	栗原隆編『感情と表象の生まれるところ』ナ カニシヤ出版、124-139頁	無								
255	2013年5月	避難住民	論文	高橋征仁	「弱い絆の強さ—沖縄県における原発事故 避難者レポート」	『建築雑誌』Vol128, No1646, 6-7頁	無								
256	2013年5月	避難住民	論文	山本薫子・高木竜輔・ 山下祐介・佐藤彰彦	「原発避難をめぐる社会調査と研究者の役 割——社会学広域避難研究会富岡班によ る研究活動」	『災後の社会学』No.1:35-46.	無								
257	2013年5月	避難住民	論文	佐藤彰彦・高木竜輔・ 山本薫子・山下祐介	原発避難をめぐる社会調査と研究者の役割 —社会学広域避難研究会富岡班による研 究活動—	『災後の社会学』No.1, pp. 35-46	無								
258	2013年5月	避難住民	論文	原田峻・西城戸誠	「原発・県外避難者のネットワークの形成条 件——埼玉県下の8市町を事例として」	『地域社会学年報』第25集、143-156頁	無	埼玉県下で形成された8つの原発避難者 のネットワークを分析し、その形成条件や 機能について明らかにした。	なし	C	I	C, F	なし		なし
259	2013年5月	避難住民	論文	金菱清	「災害死を再定位するコミュニティの過剰な 意義—ifの未死と彷徨える魂の行方をめ ぐる」	『フォーラム現代社会学』12:104-113.	無								
260	2013年6月	避難住民	論文	高橋征仁	「東日本大震災 仮すまいの姿—沖縄県に おける原発事故避難者レポート」	『建築雑誌』, 40, 2-3頁	無								
261	2013年6月	避難住民	論文	西城戸誠・原田峻	「東日本大震災による県外避難者に対する 自治体対応と支援—埼玉県の自治体を事 例として」	『人間環境論集』14(1): 1-26	無								
262	2013年7月	避難住民	論文	植田今日子	「なぜ大災害の非常事態で祭礼は遂行さ れるのか: 東日本大震災後の「相馬野馬 追」と中越地震後の「牛の角突き」(特集 社 会問題としての東日本大震災)	『社会学年報』42, 43-60頁	無								
263	2013年7月	避難住民	論文	松井克浩	「新潟県における広域避難者の現状と支 援」	『社会学年報』42:61-71.	有								
264	2013年8月	避難住民	論文	金菱清	『震災からの歩み(第25回)東北を日本の先 進地に被災地の声を聞き、見えてきた未来 へのヒント』	第三文明(645), 29-33頁	無								
265	2013年8月	避難住民	論文	千葉悦子	「原子力災害からの復興に向けた取り組み と課題——全村避難の飯館村の場合」	『計画行政』36(3), 9-14頁	無								
266	2013年9月	避難住民	論文	西崎伸子	「原発災害の「見えない被害」と支援活動」	清水修二他編著『東北発・災害復興学入門 —巨大災害と向き合う、あなたへ』, 山形大 学出版会, 144-166頁	無								
267	2013年10月	避難住民	論文	金菱清	「内なるショック・ドクトリン—第二の津波に 抗する生活戦略」	『学術の動向』(特集 震災復興の論理: 新 自由主義と日本社会) 18(10), 50-53頁	無								
268	2013年10月	避難住民	論文	千葉悦子	「原発被災による地域解体の住民の学び直 し」	日本社会教育学会60周年記念出版部会 編、『希望への社会教育』, 東洋館出版, 24- 47頁	無								

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
269	2013年10月	避難住民	論文	金菱 清	「内なるショック・ドクトリン—第二の津波に抗する生活戦略」	『理論と動態』第6号 20-36頁									
270	2013年10月	避難住民	論文	Hashimoto, Setsuko	Fukushima Nuclear Accident and Its Aftermath: A survey of Futaba District	『理論と方法』vol.28, No.2, 223-245頁	有								
271	2013年12月	避難住民	論文	西崎伸子・園田眞理子・伊藤俊介	「露出する『か弱き個人』から新しい社会・建築像へ」	『建築雑誌』12月号, 23-27頁(座談会)	無								
272	2013年12月	避難住民	論文	佐藤彰彦	「原発避難者を取り巻く問題の構造—タウンミーティング事業の取り組み・支援活動からみえてきたこと」	『社会学評論』, 64(3):439-459	有								
273	2013年12月	避難住民	論文	金菱 清・植田今日子	「災害リスクの“包括的制御”—災害パターンリズムに抗するために」	『社会学評論』64(3)386-401頁	有								
274	2013年	避難住民	論文	高橋征仁	「宮城県民間賃貸住宅入居者健康調査にもとづくレジリエンスの計量分析—G.A.ポナーノ仮説の検討」	科学研究費基盤研究(A)「東日本大震災と日本社会の再建」定例研究会, 於:福島大学サテライト街なかブランチ舟場	無								
275	2013年	避難住民	論文	小松田儀貞	「『生物学的シティズンシップ』論の意義と課題」	『秋田県立大学総合科学研究叢報』(秋田県立大学総合科学教育研究センター), 第14号, 15-23頁	無								
276	2013年	避難住民	論文	山根純佳	「原発事故による「母子避難」問題とその支援—山形県における避難者調査のデータから」	『山形大学人文学部研究年報』第10号:37-51.									
277	2013年	避難住民	論文	川副早央里	「原発避難者の受け入れをめぐる状況—いわき市の事例から」	『環境と公害』第42巻第4号:37-41、岩波書店.									
278	2013年	復興	書籍	河村哲二・岡本哲志・吉野馨子	『「3.11」からの再生—三陸の港町・漁村の価値と可能性—』	御茶の水書房									
279	2013年	復興	報告書	日本学術会議社会学委員会東日本大震災の被害構造と日本社会の再建の道を探る分科会2013	「原発災害からの回復と復興のために必要な課題と取り組み態勢についての提言」										
280	2013年3月	復興	論文	山口恵子・渥美公秀・永田素彦・作道信介編	「聴き書き 野田村の震災の記録」	北リアスにおけるQOLを重視した災害復興政策研究報告書		岩手県九戸郡野田村の住民を対象とした聞き取り調査の一部を、震災当日のこと、その後の生活、日々の思い、将来のこと、震災以前の暮らしなどについて聴き書きの形でまとめた記録集である。	なし	C	2	A,D,E,F	雇用政策研究センター (eprc@cc.hirosaki-u.ac.jp)	雇用政策研究センター (eprc@cc.hirosaki-u.ac.jp)	なし
281	2013年4月	復興	論文	今井照	「『仮の町』が開く可能性—住所はふたつあってもよい」	『世界』第842号(2013年4月号):84-92、岩波書店									
282	2013年5月	復興	論文	溝口佑爾	「情報ボランティアから思い出の救済へ—「予想外」に対応する支援の試み—」	『災後の社会学』No.1, pp. 19-34									
283	2013年	復興	論文	麦倉哲・飯坂正弘・梶原昌五・飯塚薫	「東日本大震災被災地域にみられた救援・助け合いの文化—岩手県大槌町避難所運営リーダーへのインタビュー調査から—」	『岩手大学教育学部附属教育実践総合センター-紀要』第12号.									
284	2013年	復興	論文	麦倉哲	「東日本大震災の被災から復興における「脆弱性」と「社会階層」—暮らしの面と心の平穏の面に焦点を当てて」	『理論と方法』(数理社会学会)									
285	2013年	復興	論文	大堀研	「災害後の住民参加に関する研究—岩手県釜石市の事例—」	『地域社会学年報(リスケーリング論とその日本的文脈)』25: .									
286	2013年3月	分類不能	口頭報告	山口博史	「東日本大震災時の高等教育機関および各国公館の留学生対応」	東海社会学会 2012年度3月例会		震災後、高等教育機関と各国公館が留学生(および当該国民)に対してどのように対応を行なったか、ヒアリングにもとづいてまとめた。	なし	A	3	C,F,J	なし	山口博史 hiroshigrek@yahoo.co.jp	なし

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
287	2013年5月	防災	口頭報告	Tazuko Ouchi	Mapping Assets toward Green and Safe Community	2013 Neighborhoods, USA Annual Conference (Minneapolis, MN USA)での発表		Developing disaster prevention map drawn by GIS and the mapping process are connecting to building community. The idea of mapping assets into e-map was partly given by INRC (Indianapolis Neighborhood ResourceCenter). INRC defined assets to individuals, civic clubs, associations, institutions, physical resources as park, school, hospital, place of worship, libraries, and colleges. This speech addressed some assets to rerating disaster prevention.	http://www.nusa.org/Default.aspx	G	2	J		touchi@edogawa-u.ac.jp	
288	2013年5月	防災	口頭報告	平井太郎	東日本大震災における自治体間支援の研究3:自治体における支援の正当化プロセス	地域社会学会第38回大会	無			C	2	I			
289	2013年5月	防災	口頭報告	平井太郎	Future of inter-local gov. support in the Great East Japan Earthquake	East Asian Law and Society 3rd Conference	有								
290	2013年6月	防災	口頭報告	Tazuko Ouchi	Shared Space in the business area of Tokyo: Neighborhood Organization (Chounaikai) in Japan	14th Global Conference of the International Association for the Study of Commons 5th June 2013(at Fujiyoshidashi Fuji CalmA, Yamanashi-Pref.)での発表		The theme is the neighborhood organization that is one of Chounaikai which created the new urban commons through two time disaster (the Great Kanto Earthquake and the Tokyo Great Air Raise)in Kouto-ward of Tokyo. A case study shows the victims community being grown up by grass roots in the Doujunkai Apartment.	http://iasc2013.org/en/	G		E,J		touchi@edogawa-u.ac.jp	
291	2013年10月	防災	口頭報告	平井太郎	「広域災害における自治体間支援をめぐる社会学的課題」	日本都市学会第59回大会	無								
292	2013年9月	防災	書籍	弘前大学震災研究交流会編	『東日本大震災 弘前大学からの展望』	弘前大学出版会	無								
293	2013年3月	防災	論文	宮城孝・藤賀雅人・山本俊哉・仁平典宏・廣瀬克也	「被災住民のエンパワメント形成支援による地域再生の可能性と課題Ⅱ——震災2年目を迎えた岩手県陸前高田市仮設住宅のインタビュー調査」	法政大学現代福祉学部『現代福祉研究』13号 pp.99-125	無								
294	2013年3月	防災	論文	仁平典宏	「『災間』における支援の条件——(3・11)と(3・12)のねじれの中で」	早稲田社会学会編『社会学年誌』54号、pp.3-20.	有								
295	2013年3月	防災	論文	大内田鶴子	防災まち歩き社会実験によるまちづくりの研究: 流山新市街地地区における「安心・安全多次元協働事業」の事例分析	『江戸川大学紀要』第23号		e-防災マップ(GIS地図)を、地理情報システムを用いた生活記録の蓄積としてとらえると、流山市駒木・十太夫地区における防災まち歩きは、コミュニティの醸成に寄与する社会実験の性格を持ったといえる。街歩きの記録は防災科学技術研究所のe-コミマップとして蓄積されている。地図を用いたまち歩きの効果は、イベント後のアンケート評価でも好評を得られた。	http://www.city.nagareyama.chiba.jp/life/35/016231.html	D	2	D, I		touchi@edogawa-u.ac.jp	
296	2013年5月	防災	論文	平井太郎	「広域災害における自治体間支援をめぐる社会学的課題—経験知と寄付金によって開かれた可能性」	『日本都市学会年報』第46号、pp.160-169.	有								
297	2013年6月	防災	論文	山崎美貴子・仁平典宏	「大震災から“かたり・つなぐ・くらし”へ」	日本福祉教育・ボランティア学習学会編『日本福祉教育・ボランティア学習学会編集紀要』21 pp.47-58	無								
298	2013年7月	防災	論文	中澤秀雄	「『復旧』に回収される『復興』」	『Chuo Online』「オビニオン」コーナー http://www.yomiuri.co.jp/adv/chuo/20130708	無								
299	2013年9月	防災	論文	平井太郎	「第2次八戸調査がまなざす「制度の隙間」」	『東日本大震災 弘前大学からの展望2011-2012』(弘前大学震災研究交流会編)、p.p.167-174.	無								
300	2013年9月	防災	論文	平井太郎	「第2次八戸調査がまなざす「制度の隙間」」	『地域社会研究』第6号、55-58	無								

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
301	2013年9月	防災	論文	中澤秀雄	「東日本大震災2年後のソーシャル・ケアとレジリエンス——気仙沼市面瀬中学校仮設住宅の事例を踏まえて」	『年報社会学論集』関東社会学会, 26:17-27	有								
302	2013年9月	防災	論文	谷下雅義・辻野五郎丸・菅野広紀	「豊かな海辺環境を創出するための議論の場をつくる」	都市計画家協会WebPlanners http://webplanners.net/2013/09/12/600/	無								
303	2013年10月	防災	論文	仁平典宏	「散乱するモデルの中にたたずむ——東日本大震災における複数のリスク構造」	数理社会学会編『理論と方法』54号: 247-268.	有								
304	2013年12月	防災	論文	仁平典宏	「復興の雑音(16) 変わりゆく被災地でいかなる「支援」が必要か——地域経済の活性化と復興に向けて様々なアプローチを」	『Monthly信用金庫』2013年12月号: 44-47.	無								
305	2013年12月	防災	論文	谷下雅義・樋口葵・小池洋平	「さんさんびと:南三陸町の人々から学ぶ」	http://www.yomiuri.co.jp/adv/chuo/education/20131205.htm	無								
306	2013年	防災	論文	平井太郎	「地域移動と復興感」	『野田村の皆さまの暮らしとお仕事に関するアンケート調査報告書』43-56	無								
307	2013年	ボランティア	書籍	西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂	『共感の技法 福島県における足湯ボランティアの会話分析』	勁草書房									
308	2013年1月	メディア	特集	日本学術会議	「特集3.11福島第一原子力発電所事故をめぐる社会情報環境の検証—テレビ・ジャーナリズム、ソーシャル・メディアの特性と課題—」	『学術の動向』2013年1月号									
309	2013年1月	メディア	論文	遠藤薫	「間メディア社会における<ジャーナリズム>とは?—大震災・原発事故に関する社会調査結果を踏まえて」	『学術の動向』2013年1月号p.23-33		震災時、メディアがどのように報じたかを、2012年6月に実施したインターネット調査をもとに分析した。	なし	なし	3	H,J	なし	遠藤薫 kaoru.endo@gakushuin.ac.jp	
310	2013年3月	理論	口頭報告	南裕一郎	「東日本大震災被災地におけるコミュニティ形成の期待と課題——被災地カーシェアリング・ボランティアからみえるもの」	日産自動車総合研究所+若手研究者共同研究会「低炭素社会における移動文化と移動価値」	無	石巻市を中心に、津波で車を失った被災者へのカーシェアリングがボランティアの手によって進められた。この試み被災者とも一体となって大きなうねりを起こし、仮設住宅自治会が組織されるまでに至った。カーシェアリングを機縁としたコミュニティ形成の社会過程について、現地調査での成果を報告した。		B	2	C	なし	南裕一郎 minami@kpa.biglobe.ne.jp	なし
311	2013年4月	理論	口頭報告	Kenji Ito	“Science 'Made in Japan?': Cultural Diversity and Transnationality in Post-WWII Japanese Nuclear Research”	International Congress of the History of Science, Technology and Medicine, 30th April 2013									
312	2013年6月	理論	口頭報告	立石裕二	「放射線被曝問題における科学の批判的多様性」	環境社会学会、桃山学院大学、2013年6月1日									
313	2013年6月	理論	口頭報告	松本三和夫	「科学社会学の観点から問う構造災—制度化された不作為」	日本学術会議シンポジウム「科学・公益・社会」にて招待講演、2013年6月21日、於・日本学術会議大講堂	無								
314	2013年8月	理論	口頭報告	Yoshihiro Seki	The Roles of Volunteer During the Revitalization after the Disasters: Thinking from Chuetsu Earthquake (2004) and East Japan Great Earthquake (2011)	International Conference on the Anthropology of Disaster and Disaster Mitigation and Prevention Studies (Kunming, China)									
315	2013年8月	理論	口頭報告	Masahiro Ogino	Toward a Comparative Sociology of Disaster (keynote Speech)	International Conference on the Anthropology of Disaster and Disaster Mitigation and Prevention Studies (Kunming, China)									
316	2013年9月	理論	口頭報告	Miwao Matsumoto	“A Hidden Accident Long Before Fukushima: From the Viewpoint of ‘Structural Disaster’”	科学社会学会第2回年次大会にて口頭発表、2013年9月28日、於・東京大学									
317	2013年10月	理論	口頭報告	Miwao Matsumoto	“The Security of ‘Villages’, the Disaster of Society: The Path-dependent Origin of ‘Structural Disaster’”	Invited Opening Plenary Presentation Made at Workshop on Disasters, 7 October 2013, University of California, Berkeley									
318	2013年10月	理論	口頭報告	Miwao Matsumoto	“For the Sociology of Disaster beyond Fukushima”	Paper presented at the 4S Annual Meeting, 9-12 October 2013, San Diego									
319	2013年12月	理論	口頭報告	松本三和夫	「制度化された不作為を「構造災」で考える」	関西大学にて招待講演、2013年12月4日、於・関西大学	無								

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
320	2013年12月	理論	口頭報告	立石裕二	「放射線影響をめぐる討議プロセスにおける「国際的合意」と負の自己言及」	環境社会学会、名古屋市立大学 滝子キャンパス、2013年12月14日									
321	2013年	理論	口頭報告	松本三和夫	「構造災—科学社会学におけるセクターモデルの視点から—」	北海道大学にて招待講演、2013年7月29日、於・北海道大学	無								
322	2013年	理論	書籍	浦野 正樹・野坂 真・吉川 忠寛・大矢根 淳	『津波被災地の500日:大槌・石巻・釜石にみる暮らし復興への困難な歩み(早稲田大学ブックレット「震災後」に考えるシリーズ29)』	早稲田大学出版部									
323	2013年	理論	書籍	伊豫谷登士翁・吉原直樹・齋藤純一	『コミュニティを再考する』	平凡社新書									
324	2013年	理論	特集	福祉社会学会	「特集 ポスト3.11における社会理論と実践」	『福祉社会学研究』、10号、7-99頁、東信堂.									
325	2013年	理論	特集	関西社会学会	「特集 3.11以前の社会学—阪神淡路大震災から東日本大震災へ—」	『フォーラム現代社会学』12号、松香堂書店.									
326	2013年	理論	特集	東北社会学会	「特集 社会問題としての東日本大震災」	『社会学年報』42号									
327	2013年1月	理論	論文	正村俊之	「問われる『科学とメディア』への信頼」	『学術の動向』1号,pp.42-45	無								
328	2013年1月	理論	論文	立石裕二	「キーワード 現場知」	中村征樹編『ポスト3・11の科学と政治』ナカニシヤ出版、225-227頁	無								
329	2013年3月	理論	論文	荒川敏彦	「マックス・ヴェーバーにおける理解社会学と神義論問題——先行研究とその批判」	『千葉商大紀要』第50巻第2号、39-54頁	無								
330	2013年3月	理論	論文	井上治代	東日本大震災による被災遺族の死の受容・葬送儀礼・靈魂観＝石巻調査より	東洋大学東洋学研究所 紀要『東洋学研究』		1年数ヶ月を経て被災遺族が喪失体験をどう語るか。仮埋葬の実態と、火葬と違う葬法に対する人々の意識。多発している「死者の霊が出た」という怪奇現象。④「慰霊の桜」を植樹する活動の意味など。	なし	B	2	J	東洋大学東洋学研究所	井上治代 inoueh@toyo.jp	なし
331	2013年3月	理論	論文	今田高俊	3.11後の社会とリスク対応	今田高俊編『社会生活からみたリスク(新装増補版)』リスク学入門4、岩波書店、pp.149-162		福島第一原発事故とその後の対応について、特に当局側の情報隠しや「やらせ」による国民の不信感の高まり、風評による不安の増幅に焦点を当てつつ、レビューし、リスクに対応できる社会へ向けての理論的課題を提言している。	なし	C	3	H	なし	今田高俊 imada@valdes.titech.ac.jp	
332	2013年3月	理論	論文	関嘉寛	「東日本大震災における市民の力と復興—阪神・淡路大震災／新潟県中越地震後との比較」	田中重好・松橋晴俊・正村俊之編『東日本大震災と社会学』ミネルヴァ書房、71-103頁	無								
333	2013年3月	理論	論文	関嘉寛	「東日本大震災における市民の力と復興—阪神淡路大震災／新潟県中越地震後との比較」	田中重好・松橋晴俊・正村俊之編著『東日本大震災と社会学』ミネルヴァ書房、第3章、pp.71-103.	無								
334	2013年3月	理論	論文	正村俊之	「おわりに」	田中重好・松橋晴俊・正村俊之編著『東日本大震災と社会学——提起された問いをめぐって』ミネルヴァ書房	無								
335	2013年3月	理論	論文	正村俊之	「リスク社会学の視点からみた東日本大震災——日本社会の3つの位相」	田中重好・松橋晴俊・正村俊之編著『東日本大震災と社会学——提起された問いをめぐって』ミネルヴァ書房、pp.227-257	無								
336	2013年3月	理論	論文	松本三和夫	「構造災をこえて」	『建築雑誌』第126巻、第1642号、47-48頁									
337	2013年3月	理論	論文	正村俊之	「パネル討論 震災を乗り越える社会情報学」	『社会情報』、22-2号,pp.56-57,60-61	有								
338	2013年3月	理論	論文	正村俊之	「震災とリスク・コミュニケーション——日本社会におけるリスクの社会的構成」	『社会情報』、22-2号,pp.36-45	有								
339	2013年3月	理論	論文	立石裕二	「書評 松橋晴俊・長谷川公一・飯島伸子著『核燃料サイクル施設の社会学:青森県六ヶ所村』」	『社会学評論』63(4): 624-626	無								
340	2013年4月	理論	論文	小松丈晃	「社会的排除のリスクに抗する機能システムはありうるのか」	小松丈晃、高橋徹・小松丈晃・春日淳一『滲透するルーマン理論—機能分化論からの展望—』文真堂、129-154	無								
341	2013年4月	理論	論文	小松丈晃	「ルーマン政治論におけるシステムの分出の条件と諸論点」	小松丈晃、高橋徹・小松丈晃・春日淳一『滲透するルーマン理論—機能分化論からの展望—』文真堂、3-36	無								

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
342	2013年5月	理論	論文	今井信雄	「震災を忘れていないのは誰か——被災遺物の保存の社会学」	関西社会学会(編)『フォーラム現代社会学』第12号, 98-103	無								
343	2013年5月	理論	論文	Kohta Juraku	“The Failure of Japan’s ‘Successful’ Nuclear Program: Structural Problems Revealed by the Fukushima Daiichi Nuclear Accident”	in Hindmarsh, R. (ed.) Nuclear Disaster at Fukushima Daiichi: Social, Political and Environmental Issues, Routledge, pp. 41-56	無								
344	2013年6月	理論	論文	今井信雄	「写真の経験と社会的な記憶」	社会学研究会(編)『ソシオロジ』177号, 107-113	無								
345	2013年7月	理論	論文	伊藤憲二	「『国策の失敗軌道をどう転換するか』に関して科学史家に何が出来るか」	『年報 科学・技術・社会』第22巻, 21-29頁	無								
346	2013年7月	理論	論文	立石裕二	「放射線被曝問題における批判的科学」	『年報 科学・技術・社会』22: 31-46	無								
347	2013年7月	理論	論文	小松丈晃	「科学技術の「リスク」と組織—3.11以後のリスク規制に関するシステム論的考察—」	科学社会学会『年報 科学・技術・社会』22, 89-107頁	無								
348	2013年8月	理論	論文	島村恭則	「塩竈の闇市と寿司屋」	島村恭則編『戦争が生みだす社会2 引揚者の戦後』新曜社, 頁未定	無								
349	2013年9月	理論	論文	松本三和夫	「構造災の社会学—「事務局問題」と責任帰属—」	『総合人間学』第7巻, 30-44頁									
350	2013年10月	理論	論文	小松丈晃	「非知(Nichtwissen)をめぐる争いと科学/政治」	東北社会学研究会大会シンポジウム「東日本大震災以後の社会理論の課題—リスクと機能分化」、東北大学、2013年10月19日	無								
351	2013年11月	理論	論文	松本三和夫	「構造災と責任帰属—制度化された不作為と事務局問題—」	『環境社会学研究』第19巻, 20-44頁	有								
352	2013年11月	理論	論文	奥野卓司	「動物愛護観のダブルバインド…震災・原発事故における動物救援活動を例に」	樋口進・関西学院大学キリスト教と文化研究センター編『自然の問題と聖典』p.97-131、キリスト新聞社刊、2013年11月	無								
353	2013年12月	理論	論文	Miwao Matsumoto	“‘Structural Disaster’ Long Before Fukushima: A Hidden Accident”	Development & Society, Vol. 42, No. 2, pp. 165-190									
354	2013年	理論	論文	小松丈晃	「科学技術のリスクと<制度的リスク>」	東北社会学会『社会学年報』42 特集論文「社会問題としての東日本大震災」、5-15頁									
355	2013年	理論	論文	三上剛史	「リスク社会と“ディアボリックなもの”」	『フォーラム現代社会学』12: 121-128.									
356	2013年6月	原子力災害・エネルギー	口頭報告	大門信也	「原発被災地における地域再生の模索—南相馬市における「半農半電」の試み」	(企画セッション:エネルギー転換と地域社会の自立・自律), 第27回環境社会学会大会, 桃山学院大学	無								
357	2013年6月	原子力災害・エネルギー	口頭報告	茅野恒秀	「エネルギー事業をめぐる地域社会の「応答」——エネルギー転換の中の青森と岩手」	(企画セッション:エネルギー転換と地域社会の自立・自律), 第27回環境社会学会大会, 桃山学院大学	無								
358	2013年6月	原子力災害・エネルギー	口頭報告	Haraguchi, Yayoi	“Building Resilience in Post Disaster Communities,”	The 47th Annual Meeting of Japanese Association for American Studies, Tokyo University of Foreign Studies, 2013/06/02	無								
359	2013年3月	原子力災害・エネルギー	書籍	松橋晴俊・金山行孝・茅野恒秀	『「むつ小川原発・核燃料サイクル施設問題」研究資料集』	東信堂	無								
360	2013年3月	原子力災害・エネルギー	書籍	田中重好・松橋晴俊・正村俊之編	『東日本大震災と社会学—大災害を生みだした社会』	ミネルヴァ書房	無								
361	2013年1月	原子力災害・エネルギー	論文	蓮井誠一郎・原口弥生・中川尚子	「放射線問題に向き合う教育現場(後)」	『月刊 高校教育』(2013年1月号)46/1, pp. 78-81.	無								
362	2013年2月	原子力災害・エネルギー	論文	松橋晴俊	「高レベル放射性廃棄物問題にいかに対処するか—学術会議「回答」と公平の回復」	『社会運動』395号:26-43	無								
363	2013年2月	原子力災害・エネルギー	論文	松橋晴俊	「高レベル放射性廃棄物という難問への応答—科学の自律性と公平性の確保」	『世界』no.839:33-41	無								
364	2013年3月	原子力災害・エネルギー	論文	原口弥生	「東日本大震災にともなう茨城県への広域避難者アンケート調査結果」	『茨城大学地域総合研究所年報』第46号, 61-80.	無								
365	2013年4月	原子力災害・エネルギー	論文	原口弥生	「広域避難者の生活実態と支援ニーズ — 茨城県避難者アンケート調査結果報告」	SYNODOS復興アリーナ http://synodos.jp/fukkou/3621 (2013年4月21日公表)	無								

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1) 原発事故関連 2) それ以外 3) 両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
366	2013年9月	原子力災害・エネルギー	論文	原口弥生	「低認知被災地における市民活動の現在と課題～茨城県の放射能汚染をめぐる問題構築」	『平和研究』第40号, 9-30	有								
367	2013年10月	原子力災害・エネルギー	論文	松橋晴俊	「原子力政策は何を判断基準とすべきかー政策転換に必要なパラダイム変革とは」	『世界』no.848 (2013年10月号):117-125	無								
368	2013年12月	原子力災害・エネルギー	論文	松橋晴俊	「震災問題対処のために必要な政策議題設定と日本社会における制御能力の欠陥」	『社会学評論』64(3):1-23	有								
369	2013年	原子力災害・エネルギー	論文	湯浅正恵	Whistle in the Graveyard: Safety Discourse and Hiroshima/Nagasaki Authority in Post-Fukushima Japan	The 3.11 Disaster as Seen from Hiroshima: A Multidisciplinary Approach		福島原発事故以降の放射能安全言説と広島、長崎の被爆者調査との関連についての分析	なし	BG	I	B, C, I	なし	湯浅正恵 yuasa@intl.hiroshima-cu.ac.jp	なし
370	2013年2月	復興	口頭報告	内田龍史	「名取市・岩沼市における仮設住宅の暮らしの現状」	第4回社会学4学会合同研究・交流会(地域社会学会・日本都市社会学会・日本社会学会・環境社会学会)シンポジウム「地震・津波・原発災害から2年 被災地復興の現状と課題を考える」東北学院大学土樋キャンパス	無								
371	2013年3月	復興	口頭報告	高木竜輔・大橋保明	「原発事故後における高校生の避難生活と意識——檜葉町を事例として」	『いわき明星大学大学院人文学研究科紀要』第11号,31-43									
372	2013年3月	復興	口頭報告	速水聖子	「東日本大震災における自治体間広域支援の現状」	山口大学研究推進体主催シンポジウム「東日本大震災3年目の課題—山口で考える広域避難と被災者支援のあり方—」(東日本大震災における避難者のリスク意識と社会的ネットワークに関する比較研究)	無								
373	2013年5月	復興	口頭報告	水田恵三・内田龍史	「東日本大震災後の仮設住宅における地域への帰属感・コミュニケーション等が満足感・今後の展望に及ぼす影響」	第32回(2013年度)地域安全学会研究発表会(春季)、元湯雄山閣、2013年5月									
374	2013年5月	復興	口頭報告	高木竜輔	「原発事故における区域再編と地域復興」	第38回地域社会学会大会シンポジウム(立命館大学)	無								
375	2013年6月	復興	口頭報告	内田龍史	「仮設住宅住民の現状と今後の展望——名取市・岩沼市を事例として」	2013年度東北社会学会研究例会、東北大学、2013年6月	無								
376	2013年6月	復興	口頭報告	吉野英岐	「震災から2年後の復興の思想と現実をめぐって」	2013年度第1回地域社会学会研究例会(2013年6月29日, 立教大学)	無	震災からの復興に係る復興の思想について、ナオミ・クラインのショックドクトリンやトウーシュの脱成長の思想を検討した。さらに被災地の復興の現状に復興の思想を当てはめて分析した。							
377	2013年9月	復興	口頭報告	吉野英岐	「岩手県における復興の遅れと土地問題」	日本学術会議社会学委員会 東日本大震災の被害構造と日本社会の再建の道を探る分科会(第22期第9回)(2013年9月29日, 法政大学)	無	岩手県の津波被災地における復興の現状について、共有地に代表される土地問題が大きな課題になっている点を指摘し、その歴史的背景と解決の方法について検討した。							
378	2013年10月	復興	口頭報告	高木竜輔	「原発避難による近隣関係の変化」	第86回日本社会学会大会(慶應義塾大学)	有								
379	2013年10月	復興	口頭報告	吉野英岐	「津波被災地における復興と土地問題」	日本社会学会第86回大会シンポジウム:ポスト3.11の社会学—東日本大震災後の日本社会に対して、社会学者は何をなし得るか—(2013年10月13日, 慶應義塾大学)	無	岩手県の津波被災地における復興の現状について、共有地に代表される土地問題が大きな課題になっている点を指摘し、その歴史的背景と解決の方法について検討した。これらの作業を通じて、社会学者のなしうる点について考察した。							
380	2013年11月	復興	口頭報告	Ryosuke Takaki	“The Current Situation and Problems of Fukushima Two Years After Nuclear Disaster”	California Sociological Association 24th annual conference	無								
381	2013年11月	復興	口頭報告	Tatsuto ASAKAWA	“Reconstruction support for the Tsunami Disaster Sites, and Sociology”	Annual Meeting of the California Sociological Association, Berkeley, USA	無								
382	2013年11月	復興	口頭報告	速水聖子	「東日本大震災における自治体間広域支援の創発性——中国・九州からの支援をめぐって」	『第12回都市水害に関するシンポジウム講演論文集』西部土木学会編	無								
383	2013年1月	復興	書籍	山下祐介	『東北発の震災論 周辺から広域システムを考える』	筑摩書房	無								

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1) 原発事故関連 2) それ以外 3) 両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
384	2013年3月	復興	報告書	岩手県立大学総合政策学部震災復興研究会社会調査チーム	『復興に関する大船渡市民の意識調査 第1次調査報告書』		無								
385	2013年1月	復興	論文	高木竜輔・山下祐介	「福島第一原発事故からの避難とコミュニティの再生」	『建築雑誌』128(1640),19-20									
386	2013年3月	復興	論文	渡戸一郎	「東日本大震災と災害・復興ボランティア活動——今後の課題を考える」	『2012年年度公開講座の記録』成蹊大学,11-16.	無								
387	2013年3月	復興	論文	阿部晃士・堀籠義裕・茅野恒秀	被災地における郵送調査の実施過程—岩手県大船渡市での取り組み—	『社会と調査』10号: 76-80頁	無	2011年12月に岩手県大船渡市で実施した郵送による住民意識調査(対象は大船渡市民2000人)に関して、震災後の調査に特有の課題とその対応をまとめた調査レポート。		B,D	2	A,E	岩手県立大学防災復興研究会	阿部晃士 kabe@human.kj.yamagata-u.ac.jp	なし
388	2013年4月	復興	論文	高木竜輔	「長期避難における原発避難者の生活構造——原発事故から1年後の楡葉町民への調査から」	『環境と公害』第42巻第4号:25-30、岩波書店.									
389	2013年5月	復興	論文	速水聖子	「住縁・女縁とNPO——地域社会関係の変容と再生」	『縁の社会学』橋本和孝編著、ハーベスト社									
390	2013年5月	復興	論文	浅川達人	「三陸沿岸の社会地図—東日本大震災の大津波による被災者とは—」	『災後の社会学』No.1, pp. 3-18	無								
391	2013年5月	復興	論文	阿部晃士・堀籠義裕・茅野恒秀	大船渡市における震災9カ月後の生活と意識—復興過程に関するパネル調査の起点—	『総合政策』第14巻第2号: 149-160頁	無	2011年12月に岩手県大船渡市で実施した郵送による住民意識調査のデータ分析による論文。震災による被災状況や生活の変化、不安感や生活の見通しに関する現状を記述した。また、不安感と生活の見通しに関する分析から、復興に向けた格差などの課題を示した。		B,D	2	A,E	岩手県立大学防災復興研究会	阿部晃士 kabe@human.kj.yamagata-u.ac.jp	なし
392	2013年5月	復興	論文	山下祐介・三上真史	「津波被災地の社会的被害の分析と課題——岩手県野田村の事例から」	『地球環境』Vol.18、No.1									
393	2013年7月	復興	論文	茅野恒秀・阿部晃士	「大船渡市における復興計画の策定過程と住民参加」	『社会学年報』42:31-42.	無	岩手県大船渡市における東日本大震災からの復興計画策定と住民参加の過程を通時的に分析した。筆者の意識調査によれば、住民には合意形成を重視したボトムアップ型の復興と、スピード感あるトップダウン型の復興とを望む対照的な意識があることが明らかになった。							
394	2013年11月	復興	論文	吉野英岐	「復興過程における住民自治のあり方をめぐって—岩手県釜石市の事例から—」日本地方自治学会編	『地方自治叢書 参加・分権・1ガバナンスと地方自治』第26集、敬文堂.	無	津波被災地である岩手県釜石市における被災直後から復興の過程を対象に、自治会の果たした役割や存続状況を明らかにして、震災復興と自治会の関係について論じた。							
395	2013年12月	復興	論文	内田龍史	「仮設住宅住民の現状と今後の展望——名取市・岩沼市を事例として」	『尚綱学院大学紀要』第66号:105-118	有								
396	2013年12月	復興	論文	内田龍史	「連載にあたって——被災地域と向き合う社会調査」	『ヒューマンライツ』12月号(部落解放・人権研究所)309号:28-29									
397	2013年12月	復興	論文	吉野英岐	「東日本大震災と新たな地域づくり—津波被災地での取り組み—」	『にじ』(一般社団法人JC総研), 644: 14-20	無	津波被災地におけるさまざまな復興の活動について、NPO法人やワーカーズコープの事例を取り上げて論じた。また復興ツーリズムの事例から新たな地域づくりの可能性を論じた。							
398	December, 2013	復興	論文	山下祐介・吉野英岐	「特集『東日本大震災・福島第一原発事故を読み解く』によせて」	『社会学評論』, 64-3: 330-341	有	東日本大震災以降、日本社会学会や関連学会、社会学者がどのような対応をとり、研究活動を展開してきたのかについて山下と吉野が共同で概説した。							
399	December, 2013	復興	論文	麦倉哲・吉野英岐	「岩手県における防災と復興の課題」	『社会学評論』,64-3: 402-419	有	岩手県における防災と復興の状況と課題について、大槌町(麦倉が担当)と釜石市(吉野が担当)を事例に論じた。							
400	2014年3月	総合	報告書	加藤真義編	『災後の社会学No.2 震災プロジェクト2013年度報告書』	科学研究費補助金(基盤研究A)「東日本大震災と日本社会の再建—地震、津波、原発震災の災害とその克服の道」報告書	無								

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など	
401	2014年3月	総合	報告書	加藤真義編	『災後の社会学No.1 震災プロジェクト2012年度報告書』	科学研究費補助金(基盤研究A)「東日本大震災と日本社会の再建—地震、津波、原発震災の災害とその克服の道」報告書(2013年5月31日刊行)	無									
402	2014年3月	データベース	論文	岩井紀子・宍戸邦章	東日本大震災と福島第一原子力発電所事故に関する社会学の組織的活動—日本社会学会研究活動委員会・日本学会議震災再建委員会・コンソーシアム分科会・震災科研プロジェクトの活動—	『災後の社会学』No.2, pp. 78-82.	無									
403	2014年1月	避難住民	口頭報告	佐藤彰彦	「原発事故県外避難者が抱える問題と構造」	第55回ふくしま復興支援フォーラム(福島市AOZ), 2014年1月9日	無									
404	2014年5月	避難住民	書籍	高橋準	『ジェンダー学への道案内[四訂版]』	北樹出版		第6章「困った時の、誰頼み? —災害とジェンダー/セクシュアリティ」								
405	2014年	避難住民	報告書	高橋準・加藤真義編	『東日本大震災後の福島県における農家民宿と地域社会——2013年南相馬市調査から』	(福島大学行政政策学類専攻入門科目社会と文化C, 年次報告書)	無									
406	2014年2月	避難住民	論文	植田今日子	「どこまでが集落か—津波常習地の漁村集落にみる海の領域意識」	神奈川大学日本常民文化研究所編『歴史と民俗』vol.30, 平凡社										
407	2014年3月	避難住民	論文	山本薫子・佐藤彰彦・松園祐子・高木竜輔・吉田耕平・菅磨志保	原発避難者の生活再編過程と問題構造の解明に向けて—「空間なきコミュニティ」の概念化のための試論—	『災後の社会学』No.2, pp. 23-41.	無									
408	2014年	避難住民	論文	高橋征仁	「社会学におけるコンコルドの誤謬—フクシマ問題に寄せて」	『西日本社会学年報』, 12号, 103-112頁	有									
409	2014年3月	復興	論文	溝口佑爾	情報化社会における災害ボランティアの一端—被災写真救済活動を事例として—	『災後の社会学』No.2, pp. 42-57.										
410	2014年3月	防災	報告書	立教大学社会学部社会調査グループ	『生活と防災についての仙台仙北意識調査報告書—震災被害と社会階層の関連』	2011~2013年度立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)東日本大震災・復興支援関連研究 成果報告										
411	2014年4月	防災	論文	平井太郎	20年後の『りんごの涙』: 災害と社会変容をめぐる詩学にむけて	『津軽学』第9号, 掲載頁未定				C	2		H			
412	2014年10月	理論	口頭報告	正村俊之	「科学技術のリスクと機能分化の変容」	東北社会学研究会大会シンポジウム、東北大学、2013年10月19日	無									
413	2014年5月	理論	書籍	今井信雄	「災害の記憶—写真・保存・時間の関係について」	荻野昌弘、蘭信三編『3.11以前の社会学—阪神淡路大震災から東日本大震災へ』生活書院、第7章										
414	2014年5月	理論	書籍	蘭信三・荻野昌弘編	『3.11以前の社会学—阪神・淡路大震災から東日本大震災へ』	生活書院										
415	2014年3月	理論	論文	松本三和夫	「構造災と制度設計の責任—科学社会学からみる制度化された不作為」	『学術の動向』3月号	無									
416	2014年3月	理論	論文	南裕一郎	「沖縄県における東日本大震災避難者への支援と自主避難者の生活」	『Zero Carbon Society研究センター紀要』第2・3号合併号, pp.19-24	無	沖縄県庁および沖縄県に避難している原発避難者へのインタビュー調査をもとに、避難者への支援状況と県内避難者の生活の実態を報告した。		なし	1		B,C	なし	南裕一郎 minami@kpa. biglobe.ne.jp	なし
417	2014年3月	理論	論文	正村俊之	『変貌する資本主義—貨幣・神・情報』	有斐閣	無									
418	2014年5月	理論	論文	金明秀	「東日本大震災と外国人」	荻野昌弘、蘭信三編『3.11以前の社会学—阪神淡路大震災から東日本大震災へ』生活書院、第6章										
419	2014年2月	原子力災害・エネルギー	口頭報告	原口弥生	「3.11東日本大震災後の食生活と甲状腺検査についての調査結果報告—茨城県東・県央・県南より」	『終わらない3.11原発震災の被害—北関東の被災者・福島県からの避難者調査から考える』明治学院大学, 2014年2月8日、主催: 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター、群馬大学社会情報学部附属社会情報学研究センター、茨城大学人文学部市民共創教育研究センター	無									
420	2014年3月	原子力災害・エネルギー	論文	湯浅陽一・大門信也	「再生可能エネルギー事業の社会的普及と信用力スキーム」	『サステナビリティ研究』4:41-52.	有									
421	2014年3月	原子力災害・エネルギー	論文	中山弘・大門信也	「南相馬市における「ソーラーシェアリング」のとりくみ」	『サステナビリティ研究』4:17-25.	有									

No.	発表年月	分野	分類	発表者名・著者名	タイトル	発表媒体	査読の有無	発表内容(50~100字程度)	webサイトのアドレス (ない場合は「なし」と記入)	研究資金	内容 1)原発事故関連 2)それ以外 3)両方を含む	研究分野	連携先の 名称	連絡先	その他のメッセージ など
422	2014年3月	原子力災害・エネルギー	論文	茅野恒秀	「固定価格買取制度(FIT)導入後の岩手県の再生可能エネルギー」	『サステナビリティ研究』4:27-40.	有								
423	2014年3月	原子力災害・エネルギー	論文	船橋晴俊	原子力政策における取組体制の問題点と改革の方向	『災後の社会学』No.2, pp. 58-77.	無								
424	2014年4月	原子力災害・エネルギー	論文	原口弥生	災害とサステナビリティ: 災害リスク対応における社会的公正	カール・ベッカー他著『現代文明の危機と克服: 地域・地球的課題へのアプローチ』日本地域総合研究所、47-64頁									
425	2014年1月	復興	論文	岩間信之・田中耕市・浅川達人・佐々木緑・駒木伸比古	「商業機能の郊外化と買い物環境: 岩手県山田町」	『地理』1月号, pp.14-21	有								
426	2014年3月	復興	論文	高木竜輔・石丸純一	「原発事故に伴う檜葉町民の避難生活—1年後の生活再建の実相」	『いわき明星大学人文学部研究紀要』27									
427	2014年3月	復興	論文	遠藤恵	福島30人の女性たちの声を記録して—『ふくしま、わたしたちの3.11~30人のHer Story』	『災後の社会学』No.2, pp. 12-22.									
428	2014年3月	復興	論文	浅川達人	文化の復興に関する考察—『吉里吉里語辞典』アーカイブ化プロジェクトを事例として—	『災後の社会学』No.2, pp. 3-11.	無								
429	2014年3月	復興	論文	高木竜輔・森丈弓・窪田文子	「高校生のストレス反応に及ぼす原発避難の影響(1)—調査結果の概要」	『いわき明星大学大学院人文学研究科紀要』12									
430	2014年3月	復興	論文	窪田文子・森丈弓・高木竜輔	「高校生のストレス反応に及ぼす原発避難の影響(2)—避難生活におけるストレス反応」	『いわき明星大学大学院人文学研究科紀要』12									

研究資金	研究分野
A 大学からの個人研究費	A 津波・洪水被害
B 学部・大学共通研究費	B 放射能汚染
C 科学研究費	C 避難住民
D その他の公的研究費: 文部科学省、厚生労働省、自治体	D 防災行動・防災計画
E 民間による研究費	E 復興計画
F 「外部競争的資金」と言われるもので上記外	F ボランティア・支援活動
G 自費	G エネルギー問題
H その他	H 理論
	I 政治・政策
	J その他